

目次

①姉妹都市交流とは？	}	3
②浦安の姉妹都市～オーランド市～			
③浦安市青少年海外派遣事業とは？			
④オーランドってどんなところ？		4
⑤平成 26 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画		5
⑥浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項		7
⑦平成 26 年度浦安市青少年海外派遣選考委員名簿		8
⑧平成 26 年度浦安市青少年海外派遣生名簿		9
⑨派遣生紹介			
草野 美穂		10
石戸 百音		11
山口 華凜		12
田中 夏乃子		13
高木 彩音		14
垣本 晏那		15
西本 拓海		16
志村 翼		17
木下 智恵		18
山本 陽織		19
⑩平成 26 年度浦安市青少年海外派遣生の選考		20
⑪平成 26 年度浦安市青少年海外派遣事業実績			
事業スケジュール、海外派遣中のスケジュール		21
事前説明会(保護者参加)、第 1 回事前研修会、第 2 回事前研修会		22
第 3 回事前研修会		23
本研修			
3 月 14 日(土)、3 月 15 日(日)		24
3 月 16 日(月)		25
3 月 17 日(火)		27
3 月 18 日(水)		28
3 月 19 日(木)、3 月 20 日(金)、3 月 21 日(土)		30
事後研修会、報告会		31

⑫派遣生報告書

Welcome Party	山口 華凜	32
Welcome Party	木下 智恵	34
ドクターフィリップス高校の授業参加	高木 彩音	35
ドクターフィリップス高校の授業参加	西本 拓海	36
オーランド市役所訪問	垣本 晏那	38
オーランド市役所訪問	山本 陽織	39
ケネディスペースセンター	石戸 百音	40
ケネディスペースセンター	志村 翼	41
ヒストリーセンターと消防署～エオラ湖～	草野 美穂	44
ヒストリーセンターと消防署～エオラ湖～	田中 夏乃子	45

～ホストファミリーとの思い出～	草野 美穂	48
	石戸 百音	51
	山口 華凜	52
	田中 夏乃子	54
	高木 彩音	56
	垣本 晏那	57
	西本 拓海	59
	志村 翼	60
	木下 智恵	62
	山本 陽織	65

～海外派遣の思い出～	石戸 百音	68
	山口 華凜	69
	田中 夏乃子	71
	高木 彩音	73
	垣本 晏那	74
	西本 拓海	76
	志村 翼	78
	木下 智恵	79
	山本 陽織	81

⑬英語による日本紹介 各グループの発表資料

Group A 垣本 晏那、高木 彩音、山本 陽織	
タイトル「JAPANESE HIGH SCHOOL LIFE」	83
Group B 山口 華凜、石戸 百音、田中 夏乃子、西本 拓海	
タイトル「Japanese Culture」	85
Group C 志村 翼、草野 美穂、木下 智恵	
タイトル「JAPANESE FOOD」	88

⑭浦安市青少年海外派遣事業のあゆみ 91

①姉妹都市交流とは？

姉妹都市のルーツは米国と言われています。第2次世界大戦終結後、本当の世界平和をもたらすには市民レベルでの交流が必要だと、米国のアイゼンハワー大統領によって提唱されました。さまざまな国の市民同士が友達になりお互いに理解しあい、協力しあうことが、ひいては国同士の相互理解と協力を結びついていくということが認識されてきたのです。

そしてこの運動の輪は世界中に広まり、本国米国だけでも1,100を超える都市が姉妹都市交流に参加し、日本でも約850の自治体が姉妹都市を持つにいたっています。

姉妹都市交流を通じて、私たちは異なった文化を持つ人々とのふれあいをより身近に体験することができます。この地球上には何千、何万という異なった文化があり、今やそれらは私たちの生活とは決して無縁であるとは言い切れない時代になっています。姉妹都市との交流は、私たちが真の国際人となっていく過程の第一歩であるとも言えることができるのではないのでしょうか。

②浦安の姉妹都市～オーランド市～

1987年から市民の団体「浦安市国際交流協会」により姉妹都市の選定が始まりました。様々な勉強会や議論を経て複数の候補からオーランド市を選定した後、1989年10月23日にオーランド市で、続いて1990年1月27日に浦安市で姉妹都市協定の調印式が行われました。1989年は浦安が村として誕生してから100年目にあたる記念の年であり、提携は浦安誕生100周年を記念する1大イベントとして祝福を受けることになりました。

③浦安市青少年海外派遣事業とは？

浦安市とオーランド市との姉妹都市提携を機に、市民レベルでの交流を促進することを目的として、平成2年より浦安市青少年海外派遣事業が実施されています。浦安市青少年海外派遣事業では、市内在住青少年をオーランドへ派遣し、ホームステイ、現地高校授業体験、市内施設見学、市庁舎訪問など、市民や青少年との交流を図っており、これまで21回、277名を派遣しました。

感受性豊かな時期に、外国の文化や習慣を実際に体験し、様々な交流を持つことで、国際的視野と豊かな国際感覚を身につけてほしいと考えています。

また、青少年交流の他にも、スポーツ交流、学校交流、障がい者交流など様々な分野で交流が行われています。



④オーランドってどんなところ？

アメリカ合衆国 フロリダ州オーランド市

位置：西経 81 度、北緯 28 度
オーランド市との時差＝日本時間－14 時間（夏時間の場合は－13 時間）

気候：亜熱帯性気候

年平均気温：22℃

面積：295.3 km²

人口：253,355 人(2014 年 1 月末)

市制施行日：1875 年 7 月 31 日

オーランドは元来、柑橘類などを中心とする農業で栄えたまちでしたが、オーランド近郊にケネディ・スペース・センターやディズニー・ワールドができたことにより、オーランドは急速に成長をはじめました。

市近郊には、ディズニー・ワールドのほか、ユニバーサル・オーランド・リゾート、シーワールドなど、いくつものテーマパークがあります。そのほかにも、100 を超えるゴルフ場やリゾートホテルが林立し、多数のショッピングモールもあります。

全米屈指の観光・保養都市として発展している一方、手つかずの自然環境も大切に、「シティー・ビューティフル（美しいまち）」を合言葉に、環境保全・自然保護にも取り組んでいる美しいまちです。

オーランドの位置図



⑤平成 26 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画

1. 目的 米国フロリダ州オーランド市との姉妹都市提携 25 周年記念事業の一環として本市青少年をオーランド市に派遣し、現地青少年との交流やホームステイ、教育施設などの体験をとおして国際的な視野を広め、国際社会を担うにふさわしい人間を育成するとともに、親善大使として国際交流促進を図る。
2. 主催 浦安市
3. 派遣期間 平成 27 年 3 月 14 日（土）～3 月 21 日（土）6 泊 8 日
4. 派遣先 米国フロリダ州オーランド市
5. 派遣内容 市長表敬訪問、現地青少年との交流、現地高校授業参加、ホストファミリーとの交歓会、ホームステイ、ケネディスペースセンター等の見学
6. 派遣対象 平成 8 年 4 月 2 日から平成 11 年 4 月 1 日までに生まれた市内在住者で、且つ下記の要件を満たすことができる者
 - ①過去に本事業に参加していない者
 - ②心身共に健康で、協調性に富み、派遣計画にしたがって規律ある行動及び団体生活ができる者（派遣生として決定後、健康診断書（自己負担）を提出）
 - ③国際交流活動・地域活動・青少年活動等に関心をもっている者で、帰国後にその成果を積極的に活かせる者
 - ④中学校卒業程度の英語基礎能力があり、簡単な会話ができる者
 - ⑤本人が事前説明会、事前研修会、結団式、事後研修会、報告会に参加できる者
 - ⑥市内における国際交流活動に積極的に協力できる者
7. 派遣人数 10 名
8. 募集方法 7 月 1 日号「広報うらやす」及び市 HP（<http://www.city.urayasu.chiba.jp/>）にて募集
9. 参加費 1 人 100,000 円（パスポート申請費用、ESTA 申請費用、現地でのお土産購入、旅行保険のオプション追加分は別途自己負担）
その他経費は公費負担
（その他経費に含まれるもの：航空運賃、空港使用料、現地宿泊費、現地食事代、現地施設入場料、現地交通費、現地ツアーガイド料）
10. 引率者 3 名（市職員 2 名、専用添乗員 1 名）
11. 選定方法 公募による選定
12. 選考方法 選考委員会による選考（別途 浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項参照）
13. スケジュール
 - 7 月 1 日（火）～7 月 22 日（火） 公募期間
 - 8 月 1 日（金） 18:30～20:00 文化会館第 1 練習室
第 1 回選考委員会 [主な内容] 趣旨・日程・応募状況・選考基準調整

- 8月20日(水) 9:00~17:00 文化会館
選考会及び第2回選考委員会 [主な内容] 選考試験(AM)・結果確認及び派遣者決定(PM)
- 9月14日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
事前説明会(保護者も参加) [主な内容] 事業概要説明・日程確認・必要書類提出・姉妹都市提携25周年記念事業への参加呼びかけ
- 10月19日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
第1回事前研修会 [主な内容] 自己紹介・事業スケジュール説明・オランダ概要説明・姉妹都市交流説明・オランダでの発表グループ分け(高校生の視点から日本/浦安、日本の高校生の文化などの紹介)
- 12月21日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
第2回事前研修会 [主な内容] ホームステイ・アメリカの文化/生活習慣・日本文化体験・オランダでの発表ドラフト提出
- H27年2月15日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
第3回事前研修会 [主な内容] 結団式(市長表敬)・オランダでの発表リハーサル・最終確認(パスポート・ESTA・保険・日程等)・ホストファミリー発表
- H27年3月20日(金)~27日(金)
オランダ派遣
- H27年4月3日(金) 9:30~12:00 国際センター研修室
事後研修会 [主な内容] 作文回収・報告会用パワポ作成の説明
- H27年5月10日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
報告会 [主な内容] 発表予行練習・公開報告会
- H27年6月 報告書作成

⑥浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項

(設置)

第1条 浦安市青少年海外派遣実施計画に基づき、海外派遣生の候補者を審査し選考することを目的として、浦安市青少年海外派遣選考委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を行うものとする。

- (1) 青少年海外派遣生の候補者の審査、選考に関すること
- (2) 前号に規定する事項に関し必要と認められるものに関すること

(組織)

第3条 委員会は、7人以内の委員をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げるもののうちから構成する。

- (1) 浦安市市民経済部長
- (2) 浦安市市民経済部次長
- (3) 浦安市こども部青少年課長
- (4) 浦安市教育委員会生涯学習部生涯学習課長
- (5) 学校法人明海大学からの推薦を受けた者
- (6) 浦安市国際交流協会からの推薦を受けた者
- (7) 浦安在住外国人会からの推薦を受けた者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、浦安市青少年海外派遣事業がその目的を達成するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員長は、浦安市市民経済部長をもって充てる。

- 2 委員長は、会務を総理し委員会を代表する。
- 3 委員会に副委員長1人を置き委員の互選によってこれを定める。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。
- 5 委員長及び副委員長に事故があるとき、又は委員長及び副委員長が共に欠けたときはあらかじめ委員長が指定した委員がその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員長は委員会の会議を招集しその議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(報告)

第8条 委員会は、選考審査した海外派遣生の候補者を、すみやかに、市長へ報告するものとする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は市長の定める機関において処理する。

(補助)

第10条 この要項に定めるもののほか委員会の運営に関し、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要項は、平成8年4月1日より実施する。

平成13年4月1日一部改正

平成17年3月22日一部改正

平成19年4月1日一部改正

平成26年6月5日一部改正

⑦平成26年度浦安市青少年海外派遣選考委員名簿

1	浦安市市民経済部長	石川 豪三	委員長
2	学校法人明海大学からの推薦を受けた者	学校法人明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部 ホスピタリティ・ツーリズム学科 准教授 上杉 恵美	副委員長
3	浦安市市民経済部次長	仲谷 幸一	委員
4	浦安市こども部青少年課長	岡部 浩	委員
5	浦安市教育委員会 生涯学習部生涯学習課長	大塚 繁	委員
6	浦安市国際交流協会からの推薦を受けた者	浦安市国際交流協会 会長 白木 聖代	委員
7	浦安在住外国人会からの推薦を受けた者	浦安在住外国人会 アドバイザー 伊勢 佳奈	委員

計7名

⑧平成26年度浦安市青少年海外派遣生名簿

	氏名	学年	学校名
1	くさのみほ 草野 美穂	高1	私立江戸川女子高等学校
2	いしともね 石戸 百音	高1	市立稲毛高等学校
3	やまぐちかりん 山口 華凜	高2	県立千葉東高等学校
4	たなかかのこ 田中 夏乃子	高1	私立渋谷教育学園幕張高等学校
5	たかぎあやね 高木 彩音	高1	国立筑波大学附属高等学校
6	かきもとあんな 垣本 晏那	高3	私立昭和学院秀英高等学校
7	にしもとたくみ 西本 拓海	高1	私立京華高等学校
8	しむらつばさ 志村 翼	高2	私立日本大学習志野高等学校
9	きのしたちえ 木下 智恵	高1	私立渋谷教育学園幕張高等学校
10	やまもとひおり 山本 陽織	高1	私立光塩女子学院高等学校

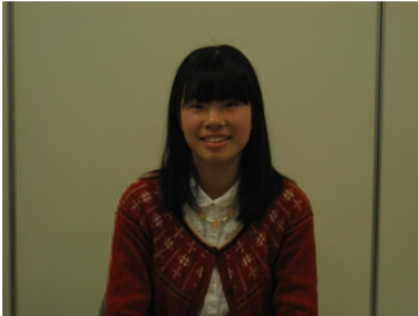
〔随行者〕

団長 橋野 浩 (はしの ひろし)

随行者 金子 教子 (かねこ のりこ)

専用添乗員 栗原 美幸 (くりはら みゆき)

⑨派遣生紹介



氏 名： 草野 美穂

学校・学年： 私立江戸川女子高等学校 1 年

趣 味： 映画鑑賞 テニス

○志望動機

以前アメリカのオクラホマ州に留学していたことがあり、そこで培った経験を使ってまた違った場所で挑戦してみたいと思ったため。

○海外派遣で学んだこと

今回の派遣では、日本文化紹介やオーランド市役所訪問といった公式なことまで単なる旅行では経験できないことをたくさんいただいたことで、日本という国をより意識し改めて自分の国のことを伝えたいという思いが増したと思う。

英語をコミュニケーションの手段として使って相手と通じ合い、相手との距離が縮まった時に、今までにない達成感を感じた。

○今後の目標

2020 年には東京オリンピックもあるので、これからもどんどん世界各国から日本を訪れる人がやってくると思う。そしてあわよくばホストファミリーも来てくれると願ってその時に恩返しの気持ちをこめて、今度は私が日本を案内してあげたいというのが今の私の小さな夢だ。

日本を紹介する時に一番必要なのは、英語力と同時に日本についての知識だと思う。だからこそどんな角度から質問が飛んできて自信を持って答えられるように、もっと日本のことを勉強していきたいと思う。

そして何より今回この派遣に選ばれたことは感謝してもしきれない。この感謝を自分たち派遣生が、その次の代へとバトンをつないでいくことで返していきたいと思う。これからも「浦安市青少年海外派遣」に様々な立場から関わっていききたいとも思う。



氏 名： 石戸 百音

学校・学年： 千葉市立稲毛高等学校 1 年

趣 味： ダンス、音楽鑑賞

○志望動機

私は、英語の授業では学ぶことのできない経験を、実際に現地で体験したいと思い志望しました。正直なところ、上手く会話ができるか、日本語の話せない状況に置かれ生活できるのか等、心配の要素はたくさんありました。しかし、私の母はアメリカに留学したことがあり、その時の経験は今でも忘れない大切な思い出になっていると教えてくれ、わたしも自信を持って参加することができました。英語が好きだったということもありますが、それよりも外国の方々と触れ合いたいという意思が強かったです。日本の文化を現地の方に伝え、またアメリカの文化を吸収できるようになりたいと思っていました。実際に、どちらも出来たので、とても充実した 1 週間を過ごせたと思います。

○海外派遣で学んだこと

違う言葉話す外国の方との、コミュニケーションをとる楽しさを一番学びました。今まで、学校のネイティブの先生等とはあまり積極的に話すタイプではなかったのですが、通じた時の嬉しさをこの海外派遣で感じる事ができました。派遣中は、ホストファミリーだけでなく、その友達や親戚等、色々な場面で関わりを持つことができました。一緒に笑ったり、意見を交換したりと、文化の違いはあれど、しっかり相手の気持ちを考えることが大切だと実感しました。そのため、今回の派遣で経験したことを生かして、英語圏の人のみならず、世界中の人々と交流を持ちたいと思います。

○今後の目標

この海外派遣で学んだ、外国人とのコミュニケーションの仕方を生かして、学校のネイティブの先生や、街で困っている外国人の方に積極的に声をかけて、自分の英語力をさらに向上させるとともに、英語を使って手助けをしたいです。今後も海外留学や研修をたくさんして、日本という小さな枠組みではなく、世界という大きな枠組みで羽ばたいていけるよう頑張ります。



氏 名： 山口 華凜

学校・学年： 県立千葉東高等学校 2年

趣 味： ダンス

○志望動機

もともとアメリカなど海外に興味があって、洋楽を聞いたり、洋画、アメリカのドラマを見るのが好きだったからです。また、学習してきた英語を使っていろいろな人とコミュニケーションをとって、自分の世界を広げたかったからです。

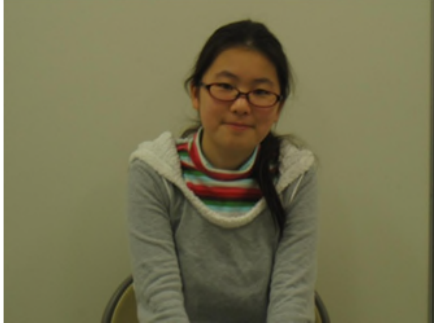
○海外派遣で学んだこと

まず、日本との文化、食生活、生活スタイルの違いです。実際にホストの家で生活し、身をもってアメリカの生活を体験しました。それは普通の観光旅行とは違って、観光だけではわからない多くのことを感じ、経験することが出来ました。

次に、自分の意見を言う大切さです。日本人はもともと周りの雰囲気に合わせて、自分の意見を控えることがあります。しかし、自分の意見を強く持って、人に伝えることは重要なことだと改めて感じました。それは特にドクターフィリップス高校での授業を通して感じました。授業中、生徒たちは積極的に意見を出していました。人に流されずに強い意志を持つことは、将来社会に出たときに大事になるはずなので、これから意見を持つことを忘れないようにしようと思います。

○今後の目標

英語の勉強を今まで以上に頑張りたいです。今回、英語がうまく話せなく伝えたいことが伝えられないことが、もどかしく悔しかったです。もともと人とコミュニケーションをとるのが好きなので、たくさんの国の人と色々な話をできるようになりたいと思いました。英語以外の言語もいつか学んでみたいです。



氏 名： 田中 夏乃子

学校・学年： 私立渋谷教育学園幕張高等学校 1 年

趣 味： ゲーム、料理

○志望動機

学生のうちに一度アメリカに行っておきたかったというのが一番でしたが、ホームステイへの興味や、訪問先がオーランドということで、アメリカでの観光都市の様子を知りたかったというのもありました。

○海外派遣で学んだこと

私がまず初めに見た「海外」は、空港のセキュリティの厳重さでした。ホームステイ先の高校生たちは私たちと何ら変わらない普通の高校生というような様子で生活していましたが、彼女たちは常にこうしていなければいけないような危機とも隣合わせでいるのかと思うと、彼女たちが学校で毎日国旗に敬礼をしたり、自国史をより大切にしたりしていることを客観的に原因とその結果として納得できました。

そのほかにも、これはホストシスターが教えてくれたことですが、学校ではエコへの配慮だけでなく、アメリカの人種上の多様性やホームレスの人々のことなどの社会的な問題についても生徒に十分な責任を持たせて一任しているなど、高校生も大人に近いものとして扱われているということを知りました。

こういった日本との違いから、アメリカの人々の進歩的で独立的な価値観を学び取れました。

○今後の目標

ホームステイをすることで自分の英会話能力の低さを実感しました。

今後は今回のように言うべきことをうまく伝えられずに礼を欠いてしまうことの無いよう、一層努力しようと思いました。



氏 名： 高木彩音

学校・学年： 国立筑波大学附属高等学校 1年

趣 味： クラシックバレエ

○志望動機

日本では近年グローバル化、グローバル人材という言葉をよく耳にするようになりましたが、そのために必要なことは世界を自分の目で見て、肌で感じ、自分なりの理解を深めることだと思います。そして、この高校生時代のこのような体験は、大人になってからとまた異なる視点からグローバルを捉えることができ、大変貴重な経験であると思います。

私自身これまでに外国人学生をホストファミリーとして受け入れ、彼らと交流する中で、私も彼らのように海外でたくさんのことを学んでみたいと思っていたので、この機会に是非参加してみたいと思いました。

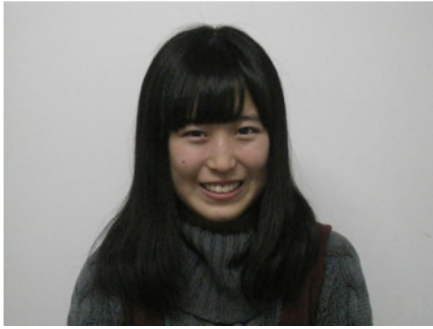
○海外派遣で学んだこと

海外派遣を通して、本当にたくさんのことを学びましたが、その最たるものは現地の人々の、自分の意見をはっきりと伝える姿勢です。私たち日本人には、無言を美德とするような文化があり、それについては古くから受け継がれてきた素晴らしいものであると思いますが、グローバル化が進む昨今、私たちは彼らに学ばなければいけないと思います。また、グローバル人材の定義として文部科学省が「日本人としてのアイデンティティを持ちながら」と述べているように、外の世界に目を向けることは同時に自分のいる地域について知ることを前提としていると思います。この海外派遣研修の中では、同時に私たちの住む街浦安について学ぶ機会が得られたので、良かったです。

○今後の目標

まず、この派遣の中で英語力不足のために自分の考えを十分に伝えられないことがあり、語学をもっと得意になりたいと強く思ったので、これからの語学学習のモチベーションとしていきたいです。その他にも今回、この素晴らしい機会に得たことは、これから社会に出ていくうえで様々な形で役に立つと思いますし、積極的に役立てていきたいと思っています。

この貴重な体験をさせてくださったことを感謝いたします。



氏 名： 垣本 晏那

学校・学年： 私立昭和学院秀英高等学校 3年

趣 味： 音楽鑑賞、買い物

○志望動機

小さい頃から海外に興味があり、いつか自分がホームステイに行ってみたいと思っており、今回の募集を聞いて応募しました。

○海外派遣で学んだこと

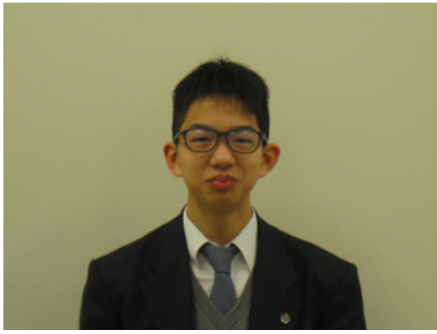
私が今回の海外研修で学んだことの一つは、日本とは全く違ったアメリカの文化です。アメリカに今まで家族との旅行などでは行ったことはあったけど、朝から晩までアメリカにここまでどっぷり浸って生活するのは今回が初めてで、毎日が本当に新しい刺激だらけでした。でも、その分慣れるのも大変でした。私は日本にいるときから全然積極的なタイプでもなく、いつも周りに合わせがちだったので、自分の意見をはっきり言うのでさえあまり得意ではないのに、それをさらに英語で伝えなきゃいけないとなると本当に大変で、すごく大きな越えなければいけない壁でした。この研修では、ホストファミリーといるときは、周りには日本人は私ひとりだけでどんなに英語が通じなかったり困ったりしたことがあっても、全部自分で対処しなければいけないという思いが私のことを成長させてくれたのではないかと思います。アメリカの子たちはいつも自分の意見をもっていて、周りは関係なく自分で決断をしていて、とてもいい刺激を受けました。この経験を活かして日本でも私はもう大学生になってしまったので、いつまでも周りに頼ってばかりではなくて自分の意見を主張して自立できるように頑張っていきたいと思います。

今回の研修では、ほんのちょっとですが英語力も上がったような気がします。もちろん会話は全然うまくできないけど、ネイティブしか言わないような言い回しなど日本の普通の授業を受けているだけでは学べないことを学べたと思います。例えば、誰かがくしゃみをしたら所構わずみんなして「Bless you!!」と言います。これは授業のシーンとした中でもみんな言うので最初は少し違和感があったけど、日本のように何も言わないのと比べたらずっと素敵だなと思いました。他にも、「Have a nice day!!」には「you too.）」と答えるなど、アメリカの人たちは全く知らない人ともまるで友達みたいに話して仲良くなっていて、そのような文化は日本にはないものだけどとても素敵で、私はこういう雰囲気かとても好きだなと思いました。

この研修で学んだことはここには書き尽くせないほどたくさんあります。こんなに貴重な経験をさせていただいて、本当に自分は幸運だなと改めて実感しています。ここでの経験を決して無駄にせず、将来世界との架け橋となれるような仕事につきたいと思っています。

○今後の目標

私は平成 27 年 4 月から大学に入学したのですが、今回の研修を通して大学で英語の勉強に力を入れたいという思いが強くなりました。今の一番近い目標は、大学で協定留学の資格を得て、中期か長期の留学に行くことです。将来は、今回の研修のことも活かして英語を使って観光関係の仕事をしたいと思っています。



氏 名： 西本拓海

学校・学年： 私立京華高等学校 1年

趣 味： パソコン

○志望動機

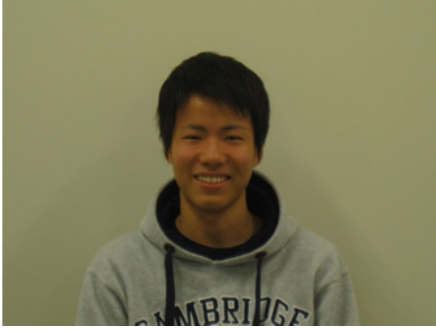
派遣を通じて日本とは異なる文化に触れ、幅広い視野を得るとともに、多くの人と交流し派遣後も交流を図る。

○海外派遣で学んだこと

改めてアメリカのスケールの大きさを感じた。日本と比べすべてのものが大きかった。また、派遣を通じ浦安市の歴史やオーランド市との交流の歴史を改めて学ぶことができた。派遣の前は、将来の自分を思い描いた時に国内のみを見ていたが、この派遣を通じ視野が広がり、一気に選択肢が増えたと思う。

○今後の目標

今回出会ったホストファミリーやドクターフィリップス高校の生徒などと交流を続け日本の文化などを発信し続けて行くとともに、国内外を問わず、更に多くの人と交流を深めたい。



氏 名： 志村 翼

学校・学年： 私立日本大学習志野高等学校2年

趣 味： テニス

○志望動機

僕は浦安で生まれ、育ってきました。小さな頃からディズニーリゾートが生活の一部だったと言っても過言ではありません。小さい頃はただ楽しいと思うに過ぎませんでした。中学生後半くらいから生まれ故郷である浦安へのディズニーリゾートの存在について、またその影響力について深く考えるようになった事と、昨年から時々英語を教えてもらっている先生（明海大の留学生）がオーランド出身で色々な話を聞くうちに同じ様に巨大リゾート施設を持つオーランドを是非この目で見てみたいと思ったからです。

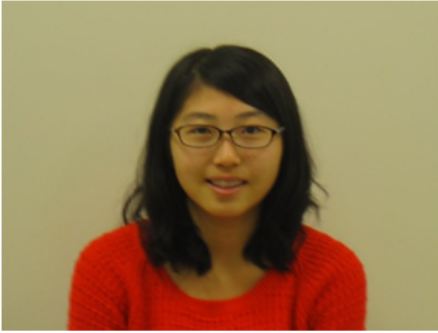
○海外派遣で学んだこと

海外派遣で学んだことの中で特に印象深かったものについて話したいと思います。Dr.phillips 高校での授業体験では、日本の授業風景とは全く違うものを感じることができました。

例えば授業中に飲食をしたり、立ち歩いたり日本では考えられない自由な面を垣間見ることが出来ました。また授業のスタイルはディベート形式が多かったです。このような授業から自己主張をはっきりできる部分が形成されてるのではないかとともに思いました。

○今後の目標

今回の派遣で学んだことを生かして日々行動していきたいです。具体的に言うと、せっかく現地の学校での体験が出来たのでアメリカ人らしい良い意味での我を持ち、もちろん日本人らしさも兼ね備えて他人の考えを尊重しながら日々行動できればいいと思いました。また今回の派遣で学んだことを浦安に還元できるよう努力していきたいです。



氏 名： 木下 智恵

学校・学年： 私立渋谷教育学園幕張高等学校 1年

趣 味： 音楽鑑賞、書道

○志望動機

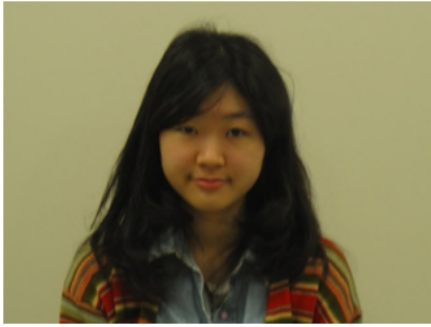
観光地がたくさんあるオーランドを自分の目で見て、その魅力を知りたい。

○海外派遣で学んだこと

アメリカの文化を知ることができた。また、浦安市とオーランド市の姉妹都市の関係のような国際関係の大切さを体感した。

○今後の目標

今回、アメリカで経験したことを通して異文化を積極的に理解し、国際的に活躍できるような人になる。



氏 名： 山本 陽織

学校・学年： 光塩女子学院高等学校 1年

趣 味： ダンス、音楽鑑賞

○志望動機

オーランド市への派遣でホストファミリーの方や、現地の方々との交流を通じて国際的な視野を広めるため。

これまで、浦安市内の学校に通っていなかったため、同年代の方々との交流の機会にもなると思ったため。

○海外派遣で学んだこと

全体を通して様々な文化の違いや言語の壁はありましたが、曖昧に笑って済ませるのではなく、きちんと相手に伝えようと努力することが、海外で過ごす上で大事だと学びました。

また、アメリカでは平日の学校や仕事の時と、週末や祝日のプライベートの時のオン・オフの切り替えが日本の一般的な家庭よりもはっきりしていたので見習いたいと思いました。

○今後の目標

今回の派遣では、添乗員の方をはじめ、案内してくださった方や派遣の他のメンバーに助けられた場面も多々あり、自分の英語力の未熟さを痛感させられたので、これまで以上に英語を勉強する必要があると思いました。

今回の派遣での英会話をもとに、学校での勉強だけではなく、英語での日常会話の勉強も続け、ホストファミリーの方とすらすら会話できるレベルにまで達したいです。また、高校の授業の英語は日常会話よりも難しかったので、アメリカの大学で授業を受けられるような英語も習得したいです。

⑩平成 26 年度浦安市青少年海外派遣生の選考

選考委員会について

浦安市青少年海外派遣 第1回選考委員会

日時：平成 26 年 8 月 1 日（金）午後 6：30～

場所：文化会館 3 階第 1 会議室

- 内容： 1. 平成 26 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画について
2. 派遣生の応募状況について
3. 選考会及び第 2 回選考委員会について



浦安市青少年海外派遣 選考会

日時：平成 26 年 8 月 20 日（水）午前 9：00～

場所：文化会館 3 階

- 中会議室（受付、全体スケジュール説明、Aグループリスニング試験及び作文試験）
第 1 会議室（Bグループリスニング試験及び作文試験）
第 1 練習室（面接試験）
第 3 練習室（スピーキング試験）

- 内容： 1. 受付
2. 日程説明
3. 選考（リスニング、面接、スピーキング、作文）

浦安市青少年海外派遣 第2回選考委員会

日時：平成 26 年 8 月 20 日（水）午後 2：00～

場所：文化会館 3 階第 1 練習室

- 内容： 1. 作文の採点
2. 選考会実施結果報告
3. 講評
4. 選考審査



選考の結果について	
公募期間 平成 26 年 7 月 1 日（火）～7 月 22 日（火）	
応募者	35 名
選考会参加者	29 名
派遣決定者	10 名

⑪平成 26 年度浦安市青少年海外派遣事業実績

事業スケジュール

平成26年9月14日（日）	事前説明会（保護者参加）
平成26年10月19日（日）	第1回事前研修会
平成26年12月21日（日）	第2回事前研修会
平成27年2月15日（日）	第3回事前研修会
平成27年3月14日（土） ～3月21日（土）	★青少年海外派遣★
平成27年4月3日（金）	事後研修会
平成27年5月10日（日）	報告会

海外派遣中のスケジュール

日程	主な内容
3月14日（土）	出発→夕方オーランド空港着 空港にてホストファミリーと合流し、そのまま各家庭へ ※ホームステイ
3月15日（日）	終日ホストファミリーと交流 ※ホームステイ
3月16日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・ヒストリーセンター（歴史博物館）見学 ・オーランド消防署見学 ・市内ショッピングモール見学 ・Dr.Phillips 高校でのウェルカムパーティー ※ホームステイ
3月17日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・ケネディスペースセンター見学 ※ホームステイ
3月18日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・サンレール（地域の通勤列車）試乗 ・オーランド市役所見学 ・オーランド市長及び市議会議員表敬訪問 ※ホームステイ
3月19日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・ディズニーワールド（アニマルキングダム）見学
3月20日（金）	午前9時オーランド空港発の飛行機に乗り日本へ
3月21日（土）	午後6時、浦安市役所到着、解散

事前説明会（保護者参加）

日時：平成26年9月14日（日）

午前9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 団長挨拶
 2. 自己紹介
 3. 姉妹都市の紹介
 4. 海外派遣の概要について
 5. 事務説明等
 6. 今後の日程
 7. 質疑応答



第1回事前研修会

日時：平成26年10月19日（日） 午前9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 団長挨拶
 2. 自己紹介
 3. 青少年海外派遣事業の概要について
 4. アイスブレイク
 5. 浦安市についての学習
 6. オーランド市についての学習
 7. グループワーク
 8. その他連絡事項



第2回事前研修会

日時：平成26年12月21日（日） 午前9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 派遣概要説明
 2. グループワーク（ネイティブスピーカーからの指導）
 3. その他連絡事項



第3回事前研修会

日時：平成27年2月15日（日） 午前9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 日程等最終確認
 2. 結団式
 3. 出国にあたっての注意事項等説明
 4. グループワーク（ネイティブスピーカーからの指導）
 5. その他



本研修 平成27年3月14日（土）～3月21日（土）
3月14日（土）
出発→タ方オーランド空港着



空港にてホストファミリーと合流し、そのまま各家庭へ



3月15日（日）
終日ホストファミリーと交流



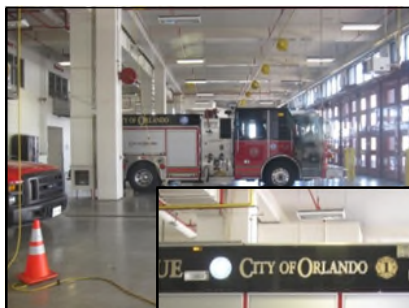
3月16日(月)
Dr.Phillips 高校授業参加



ヒストリーセンター（歴史博物館）見学



オーランド消防署見学



Dr.Phillips 高校でのウェルカムパーティー

英語による日本文化紹介



日本文化体験

折り紙



パン食い競争



長縄跳び



3月17日(火)
Dr.Phillips 高校授業参加



ケネディスペースセンター見学



3月18日(水)
Dr. Phillips 高校授業参加



サンレール (地域の通勤列車) 試乗



オーランド市役所見学



オーランド市長及び市議会議員表敬訪問



3月19日(木)
Dr. Phillips 高校授業参加



ディズニーワールド (アニマルキングダム) 見学



3月20日(金)
午前9時オーランド空港発の飛行機に乗り日本へ



3月21日(土)
午後6時、浦安市役所到着、解散

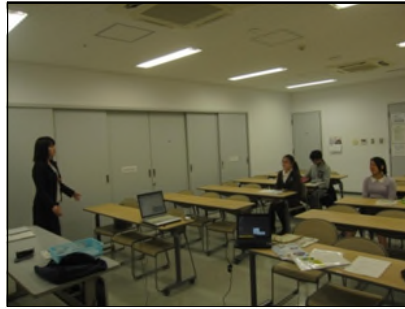


事後研修会

日時：平成 27 年 4 月 3 日（金） 午前 9：30～

場所：浦安市国際センター研修室

- 内容： 1. 報告書確認
2. 報告会について
3. 写真交換
4. その他



報告会

日時：平成 27 年 5 月 10 日（日） 午前 9：30～

場所：浦安市国際センター研修室

- 内容： 1. 報告会リハーサル
2. 報告会
3. 交流会



⑧派遣生報告書

Welcome Party

山口 華凜

ウェルカムパーティーでは、準備してきたプレゼンと日本文化を紹介する出し物を行いました。プレゼンは、日本の食、学校生活、カワイイものについて、グループに分かれてそれぞれ紹介しました。ホストファミリーや来てくれた生徒や大人たちは、私たちの発表を興味津々に真剣に聞いてくださいました。プレゼンの中で、日本のお弁当はアメリカでも知られていて、知ってる！といった声が上がっていました。また、私の



グループでは日本のカワイイ文化を紹介しました。「kawaii」の意味を知っているか聞いてみると多くの方が知っていると答えてくれて、うれしかったです。日本の文化が外国で受け入れられ、気に入ってもらえることは素晴らしいことだと改めて感じました。そう思うともっと日本について知ってほしいと思い、発表に熱がこもりました。

出し物では、妖怪体操、パン食い競争、折り紙、縄跳びを紹介しました。最近のジャパニーズカルチャーから、伝統的なものまで幅広い出し物を選びました。妖怪体操コーナーでは、曲にのせて踊り、楽しんでいました。さすがアメリカ人！ノリがよく、初めて見る踊りでも難なくこなしていました。折り紙コーナーでは、ピカチュウと紙飛行機作りを体験してもらいました。折り紙はアメリカには無い文化で、難しそうで苦戦してい



ましたが、最後出来上がった後は達成感から笑顔がこぼれていました。私はパン食い競争を担当しました。子供も大人の方も参加してくださいまして、とても盛り上がりました。競争とあってみんな闘争心に火がつき、子供はもちろん大人も全力で走ってパンに食らいついていました！ここで1つ意外だったことがありました。今までにパン食い競争でなか

なかパンを取れずに 1 人残ってしまい、恥ずかしい経験をしたことってありますよね？これは私の勝手なイメージかも知れませんが、それは日本人特有の感情で、アメリカ人はそんなことは全く気にしないものだと思っていました。しかし、実際レースをしてみるとアメリカの方も最後まで残ってしまうのは、恥



ずかしいようで、パンにかぶりつくのを諦めていました。また、後半には 1、2、3、... と数を数える声が聞こえました。大縄跳びをして楽しんでいました。私たち日本人もホストも交じってみんなで楽しみました。

ウェルカムパーティを通して、アメリカ人の温かさ、ノリの良さを実感しました。プレゼンを真剣に聞いてくれたり、質問に積極的に答えてくれたり、出し物を全力

で楽しんでくれたりとすごく感激しました。準備をした甲斐があったと思いました。

また、日本文化を知って欲しいという気持ちがより一層高まりました。もっと日本のことを知って興味を持ってもらいたいと思いました。この思いは、自分が将来社会に出たときに重要になるはずです。この思いを心にとめて日本のいいところ探し、発信できるようにしようと思いました。

オーランドに到着して3日目の夜にウェルカムパーティーがあった。ホストファミリーの方々に参加していただき、Dr.Phillips 高校のカフェテリアで日本の文化を紹介し体験してもらった。

まず、最初に私たち派遣生が日本の文化について紹介するプレゼンテーションをした。私たちは3つのグループに別れ、それぞれ日本の「学校生活」「カワイイもの」「食」について紹介した。このプレゼンテーションの準備のために3回の事前研修会があった。その他にもグループごとに集まってこのプレゼンテーションの準備や練習をしていた。事前研修会では英語のネイティブスピーカーの方に発音からプレゼンテーションのコツなど様々なことを指導していただいた。「学校生活」についてのグループは日本の学校行事や制服、学生の昼食などについて紹介し、「カワイイもの」ではカワイイという言葉の使い方やファッション、アイドル、ゲームについて、また日本の学生の一日の生活についても紹介していた。「日本の食」についてのグループは日本人の一日の食事を朝食、昼食、夕食に分けて紹介した。

次に参加してくれたホストファミリーも一緒に楽しめるような出し物をした。オーランドの方々に少しでも日本の文化を体験してもらえるような出し物を用意した。「折り紙」「大縄跳び」「パン食い」「ようかい体操第一」の4つのブースを用意し、参加している方々が自由に体験できるような形になっていた。「折り紙」では鶴、ピカチュウ、紙飛行機の作り方を紹介した。紙飛行機は複数の種類の作り方を用意し、みんなで紙飛行機を飛ばして距離を競いあって遊んだりした。「大縄跳び」は日本人も現地の方も一緒に数を数えながら跳んですごく盛り上がった。「パン食い競争」ではパンをくちで取るのにみんな苦戦していた。「ようかい体操第一」ではホストファミリーの方も見よう見真似で一緒に踊ってくれた。参加してくれたホストファミリーの方々に日本の文化を少しでも体験してもらい、楽しんでもらえた。また、ホストファミリーの方々だけでなく、私たち自身も楽しむことができた。

思っていたよりも時間が短かったが、その短い時間の中でもみんなで楽しむことができた。オーランドの方々に日本の文化や私たちの生活を知ってもらい、楽しんでもらうことができてよかったと思う。また、私たち自身も楽しむことができた。ウェルカムパーティーはこの派遣の中でも良い思い出になったと思う。



私が参加したのはホストシスターであるRoseのクラスでした。まず驚いたのは、ドクターフィリップスの授業開始が7時20分と、とても早いことです。また、ちょうど3月の第二日曜日からサマータイムが始まったこともあり、Roseのお父さんに運転してもらって登校した時は、未だ月が出ており、びっくりしました。



(写真は1時限目開始前の高校

の様子)ドクターフィリップスは4000人もの生徒を有すとても大きな高校で、私たち日本のそれとは比べ物にならないほどでした。HRのクラスはないようで、生徒たちは個々のロッカーから授業の道具を取り出すと、それぞれの教科の教室へと移動していきました。学校には制服もなく、また様々な人種の生徒たちがいるため、彼らは皆思い思いの服装で過ごしていました。休み時間の間は、Roseの友達と話すうちにあっという間に過ぎていきました。彼らは皆日本に対して興味を抱いてくれたので、嬉しかったです。

科目について驚いたのは、生徒たちは毎日同じ科目を同じ順番に受けているということです。私たち日本の学校は多くが曜日によって受ける科目が異なるので、新鮮でした。また、一授業が48分という区切りの微妙な長さだったのも驚きましたが、このことについてはRoseも深い理由はないと思うと話していました。

私が体験した授業は、化学、英語、数学です。化学では光の波長について学習していて、先生が炎色反応を実際に見せたり、10種類以上の薬品を生徒たちに見せながら授業を進めていました。英語は人種差別についての文章を読み、3人ほどのグループごとに前に出てディスカッションするというものでした。どの生徒も自分の意見を積極的に述べており、白熱した議論となっていました。ただ、元の文章を渡されていなかったため、理解しづらかったです。数学は比較的理解できましたが、関数電卓に慣れず、苦労しました。(写真は生物の授業中)



どの授業も日本とあまり変わらない内容を扱っていて、学ぶことは共通であることを実感しました。英語の単語を拾っていくのに精一杯でしたが、それらの単語を調べ、インプットしていったので、たくさんのお話を学びました。

ドクターフィリップス高校の授業参加

西本 拓海

ドクターフィリップス高校はとにかく大きい学校だった。全校生徒 4000 人を擁し、敷地面積は東京ドーム 5 個分にも匹敵する。また、この学校には巨大な駐車場が存在する。駐車場だけで東京ドーム 1 個分はある。はじめに地図をもらった時も駐車場の大きさには驚いたが、教員がメインで使い、たまに保護



者が集まるときなどに利用する程度のものであろうと考えていた。しかし、全くの見当違いであった。ドクターフィリップス高校に行った初日、授業開始は 7 時 20 分のため朝の準備は慌ただしかった。7 時頃に出発すると言われていたので、それまでに朝食をいただき準備を済ませた。そこからが衝撃的だった。さあ行こうと言って家を出たのはホストブラザーで、日本で言う高校 2 年生の Tommy だけだった。私はホストマザーが学校まで送迎してくれるものと思っ

ていたのだから歩いて行くのかなと思った。しかし、Tommy が車のドアを開け、ここに乗ってと言った。彼はドライバースライセンを持っていて、自らの運転で高校に行っていたのだ。後に聞いた話だが、アメリカの子供たちは 16 歳になることを待ち望んでいるのだという。それは、ドライバースライセン（運転免許証）が取れる年齢になるからだ。10 分位すると学校の巨大な駐車場に到着した。そこには車で登校してくる多くの生徒の姿があった。東京ドーム 1 個分の巨大な駐車場は、なんと生徒のためにあるものだったのだ。続々と駐車場に入ってくる車の中には日本では高級車と言われるメルセデス・ベンツや BMW、トヨタの LEXUS などもあった。日本ではにわかに信じがたい光景だった。

授業は生物、物理、英語の授業を体験した。ドクターフィリップス高校は時間が毎日同じらしく、この 3 教科を毎日体験した。どの授業でもレポートを提出したり、生徒が実験結果をまとめ、考察し、それについて発表するなど生徒主体の授業を見ることができた。特に印象的だったのは英語リーディングの授業だ。リーディングの授業では毎時間 5 人から 6 人の生徒が選ばれ、ある物語について主人公の心情などを考察しディスカッションをしていた。ディスカッションをする生徒は事前に予習を入念にしなければならず、5 日目は Tommy がディスカッションをする生徒となっており、前日は本を読むために部屋にこもって準備をしていた。授業の前にその本を見せてもらおうと、様々な考察を書いた付箋が多くのページに貼ってありディスカッションも上手くいっていたようだった。



一方で、生徒の中には遅刻をしてきても何も言わず着席する人や、朝食をとっている人、スマートフォンを触っている生徒もいた。先生の方も見て見ぬ振りのような状況で、これが、自由の国たる理由かとも思ったが、自己管理や責任が若い頃から求められる国ならではの光景なのかもしれない。

オーランド市役所訪問

垣本 晏那

今回私たちはフロリダ州にあるオーランド市と私たちの住んでいる浦安市との姉妹都市提携 25 周年ということでこの研修に参加させていただきました。

なので、今回の研修に大きく携わってくださったオーランド市議会議員の方に出会うためにオーランド市役所を訪問しました。まず私たちはオーランド市役所の外観のかわやかさときれいさに驚きました。市役所に着くと市長の秘書の方が明るく出迎えて下さり、市役所に入るだけなのに厳重なセキュリティチェックを受けなければいけないことにまたとても驚きました。そのあとに、さっそく議員の方にお会いしました。もっと堅苦しい感じで進むのかと思っていましたが、議員の方はとても気さくな方でみんなと「Hi! Nice to meet you!!」と一人一人握手をしてくださってすごくよい印象の方でした。オーランド市と浦安市の姉妹都市提携は、1988 年 2 月より交渉が開始され、1990 年 1 月 27 日に姉妹都市提携書を調印されて以来、友好の翼や、マラソン交流などさまざまな交流事業が行われてきました。今回私たちもその一環としてオーランドに派遣されたのですが、議員の方や姉妹都市担当委員のジョンソン貴子さんらが話しているのを聞いて、浦安市とオーランド市の結びつきの強さを改めて実感し、この友好関係は素晴らしいのでこれからもずっと続いてほしいと思いました。

当初の予定では、市長さんは別の大事な会議のため来られないということでしたが、私たちのために少し早く帰ってきていただいて、少しだけでもお会いすることができて嬉しかったです。市長さんが出ている会議というのが日本からオーランドまでの飛行機の直行便を飛ばすというもので、もしそれが実現するならば、よりオーランドの魅力が多くの人に伝わるし、私たちの姉妹都市提携の今後の発展につながるとても素晴らしい企画で、ぜひ実現させてほしいです。

今回の市役所訪問では、この姉妹都市の結びつきを強く実感したと同時に、これからは私たちが二つの都市の架け橋になりたいなと思います。



オーランド市役所訪問

山本 陽織

ウィンターパークを散策、買い物した後、オーランド市役所を訪問しました。オーランド市役所はとても大きくきれいな建物で、市役所とは思えないほど立派でした。中に入ると、いくつかの国旗が掲げられており、その中には日本の国旗も含まれていました。



そしてそのさらに奥にむかうためにはセキュリティーチェックを受ける必要があり、日本との違いを感じました。

私達を出迎えてくださったのはオーランド市議会議員のロバート・スチュワート議員です。スチュワート議員は以前に息子さんと一緒に浦安市を訪問されたことがあるそうです。スチュワート議員はとても気さくで優しい方で、派遣生が一人ずつ自己紹介をした後は、私達に質問をされたり、反対に私達の質問に対して分かりやすく答えて下さいました。私が一番印象に残っているお話は日本とオーランドの直行便を出したいというお話です。日本からオーランドへ行くためには一度、アメリカで国内線に乗り継ぐ必要があります。もし、日本とオーランドの直行便が実現すれば、今よりもオーランドへ気軽に行けるようになり、同様にオーランド市の方も日本に来て下さる機会が増えるかもしれません。オーランドと日本の直行便が本当に実現すればいいなと思います。その後、オーランド市に関するマグカップやピンバッジ、ポストカードなど素敵なプレゼントを頂きました。



最後に市役所で記念撮影しました。その時に偶然オーランド市長が外からお戻りになり、一緒に記念撮影をしていただくことが出来ました。



オーランド市議会議員の方のお話を伺うという大変貴重な経験をさせて頂き、とてもうれしく思います。

私たちは 17 日にケネディスペースセンターに行きました。まず始めに、二時間にわたるツアーに参加しました。バスでスペースシャトルの組み立て棟など、NASA の様々な施設を拝見することができました。ケネディスペースは東京ディズニーランドのおよそ一万個分の面積があるそうです。なぜなら、ロケット発射時に失敗した際に、私たちには想像もつかないような被害を被るからです。その被害を最小限に抑えるために、大きな広い土地に建設されたとのこと。

バスの移動中には、ワニやここでしか見ることのできない黒い鳥など、普段日本で生活している中では出会えない生き物たちにも遭遇することができ、とても新鮮でした。生き物ならず、多くの木々や花、広大な土地に恵まれている、アメリカならではの自然に触れ合えた気がしました。

バスを一旦降りて、映像を二つ見ました。一つ目は、ロケット打ち上げにあたる過去の出来事についての映像でした。アポロー号の発射失敗で亡くなった三人の宇宙飛行士の死が悲しまれている状況が、当時の新聞等を通して、よく見て取れました。二つ目は、七回目で初の発射成功の瞬間を再現したストーリー性のものでした。



映像を鑑賞した後、とても巨大なロケットを見ることができました。このロケットは 19 号として作られたのですが、打ち上げが打ち切られたため、使われずに残っています。実際に本物のロケットを間近で見ると、信じられない気持ちになりました。本体の内部は精密になっていて、たくさんの管や線が通っていて、複雑な造りになっているのが見て取れました。横に倒して展示されていたため、底の部分も確認することができ、思わず興奮してしまいました。

その後、ツアーを終えた私たちは、実際の重力を体験できるシャトル発射体験を行いました。発射時の姿勢は 90 度傾くので、仰向けのような形になります。火が出て機体が浮く頃には、細かく激しい振動が体に伝わりました。約五分ほどして宇宙空間に出てみると、姿勢はやや前傾となり、無動となります。

想像していた以上に激しく、頭がガンガンしてくるほどの高速の振動が私たちに襲ったため、とても驚きました。しかし、実際の発射における振動や圧力は、私たちが体験したものとは比べ物にならないのだろうなと思いました。また、カウントダウン中に、体験なのにもかかわらず、なぜかとても緊張したので、宇宙飛行士の方々はもっと緊張感があるのだろうなと思いました。

ケネディスペースセンター

志村 翼

ケネディスペースセンターは今回の派遣の日程では 4 日目に訪れた場所でした。Dr.phillips 高校から 1 時間ほどかかりました。そもそもケネディスペースセンターとはどのような場所なのか、ということから紹介していきたいと思います。

ケネディスペースセンターとはフロリダ州ブレバード群メリット島という場所にある、アメリカ航空宇宙局いわゆる皆が知っている NASA の有人宇宙船発射場及び打ち上げ管制施設のことです。敷地の総面積は 385 平方キロメートルであり、わかりやすい例でいうと浦安にある東京ディズニーリゾート（ランドとシーを合わせて）が 385 個分入ってしまうという考えられないくらい大きな場所です。またこの施設内の大部分は安全・環境保全のために立ち入り禁止となっているため、周辺には珍しい鳥やその巣、そしてフロリダ州で有名なワニが数多く生息する野生動物の自然保護区にもなっているということであり、実際にバスツアーの時に外を見ていると大きなワニやとても有名なアメリカ合衆国の国鳥、日本でいうキジにあたる白頭鷲の巣など非常に貴重なものを見ることが出来ました。

次にバスツアーを通してわかったことについて紹介していきたいと思います。

バスツアーでは広大な敷地に点在している各施設をバスで見て回ったり、実際のスペースシャトルを間近で見学するという内容でした。その中には今後打ち上げられる時に使うための現在建設中のスペースシャトル打ち上げ発射台であったり、実際にスペースシャトルを組み立てるための高さおよそ 160 メートルほどの工場を見ることが出来ました。建物内での見学となったのはアポロ・サターン V センターという場所であって、ここではアメリカにおける宇宙開発についての歴史を深く学ぶことが出来ました。

アポロ計画の大元となる歴史について紹介したいと思います。1950 年代後半から始まったソビエト連邦と宇宙開発競争で劣勢に置かれていたアメリカは 1957 年にソビエト連邦が世界初の人工衛星を打ち上げたことに対抗して、1958 年にアメリカ初の有人宇宙飛行計画となるマーキュリー計画を発表し、1961 年には約 15 分間の弾道飛行を成功させました。この成功を受けて当時

の大統領であるジョン・F・ケネディは同年に月への有人飛行計画を演説で発表しました。このように最初のマーキュリー計画の成果がアポロ計画へと引き継がれることとなったのです。そもそもアポロ計画というものは人類初の月への有人宇宙飛行計画であり 1961 年から 1972 年にかけて実施され結果としては全 6 回の有人月面着陸に成功したものです。このセンターにはこのような歴史を学べる他に当時の世界各国の反応が示されている新聞記事の一面の展示や宇宙服はもちろん実際に月へ行って帰ってきた機械や本物の月の石などが触れるコーナーなど新鮮なものばかりでした。また最近ではアトランティスと呼ばれる様々な宇宙に関することが体験できる場所もオープンしました。行ってみた感想としては見ているだけでなく、実際に体験することでより深く理解することがあるのでとても楽しい施設でした。

もともと宇宙に関しては僅かばかりですが興味を持っていたのでアポロ計画を中心に学ぶことができ、また日本では絶対に経験することが出来ないことをやれるといった面でも非常に有意義な時間を過ごせました。ただ広すぎてよくわからなかったこともあるのでもう 1 度行って知りたいなと思えるすごい場所でした！



ヒストリーセンターと消防署～エオラ湖～

草野 美穂

初日の学校の授業を 3 限まで受けそれぞれホストシスター、ブラザーに連れられて集合場所までアメリカ満喫感全開の表情でやってきた。

ヒストリーセンターまでバスの中ではホストファミリーとの週末の話を情報交換しあっていた。Dr.Phillips 高校を出発して少し道路を走るとすぐ市の中心部に着き、ガイドの方が目の前に立つ建物群を説明してくれた。

街並みだけでも絵葉書きの一枚を切り抜いたかのように本当にきれいだった。最新の建物と昔ながらの建物の融合の美しさに目を奪われる。



私たちの最初の見学地はヒストリーセンターだった。60 代くらいのおじいさんがガイドしてくれた。かつては裁判所であった所を中だけ博物館仕様にしたというヒストリーセンターは 4 階建てで 2 階には浦安市と姉妹都市提携の関連資料のスペースもあり、日本側から贈られた日本人形すみれちゃんも飾ってあった。

そこを抜けると、“Runway men”というテーマの特別展示があり 1950 年代にアフリカ系アメリカ人によって描かれたというフロリダの素晴らしい風景の油絵を鑑賞することができた。描かれた当時 1 枚 5 ドルで売られていた絵は現在 1 枚数億単位の価値のするものまであるそうだ。

次の階に進むとフロリダの歴史に変わり蚊帳などが張られた昔の家の内部やオレンジ栽培の工程が模型で紹介されていた、ここではガイドのひいおじいさんの友達がよく登場した。また別の階ではアフリカ系アメリカ人が自分たちの歴史をキルトでパッチワークという形で作った作品の展示があった。南北戦争やキング牧師などがモチーフになっているものもあった。自由時間で私たちは旧法廷を見学した。

日本でさえテレビの中でしかみたことのない本物の法廷に興奮した。ガイドさんが判事の着る黒い法服を試着させてくれ、私たちはそれを着てちょっとなりきった気持ちで実際の椅子に座ってガベルをボンボン叩いててみたりした。



次に向かったのはオーランド消防署だ

ここで姉妹都市提携の時に日本とオーランドの架け橋となられたジョンソン貴子さんとお会いした。消防署の中へと案内されて、玄関には 9.11 同時多発テロの時の遺品や記念碑、廊下の壁にはオーランド管内で殉職され隊員の方の碑が飾られていた。

そこを通り抜けると、パソコン室のような部屋について説明を受けているときに1人の若い隊員が通りかかった。彼こそが派遣団のなかで一躍ブームとなった“ジェシー”だ。また彼はオーランド署内に3人しかいない特別な訓練を受けているうちの一人でもあった。このあと私たちは謎に興奮気味に署内を進んでいき、食堂をみせてもらった。ここでは隊員自ら当番制で自炊するそうだ。決まり事は「味は関係ないから全員を満腹にするだけの量があること」だそうだ。

その後ジムや寝泊りする部屋を見学し、最後に消防車を見せてもらった。形やデザインがどことなくおしゃれでカッコよかった。

ジェシーが消防車の中や制服の試着など普段見られない内部まで細かく見せてくれた。非常ベルを鳴らして訓練さながらのこともやってくれた。

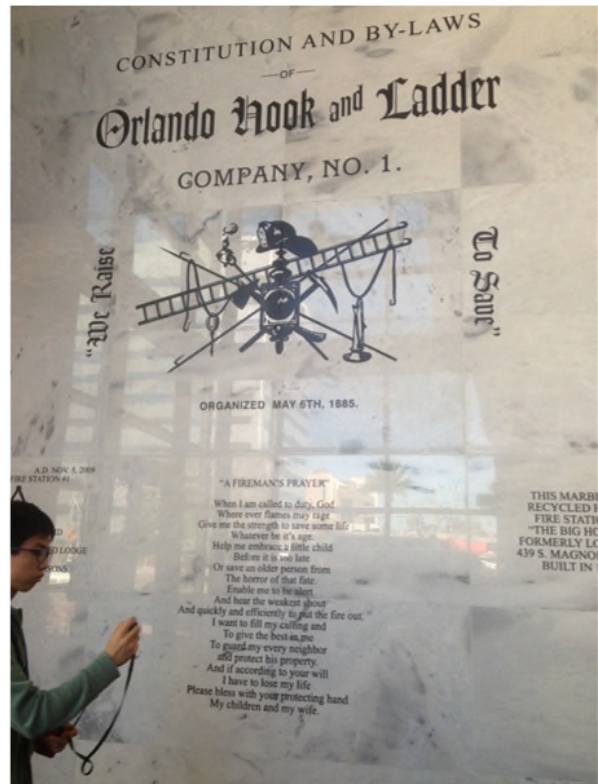
隊員の方々の温かな対応には最後まで頭があがらなかった。



オーランド市庁舎近く、ダウントウンオーランドにあるHistory Centerの建物は、昔は裁判所として使われていたものを保存し、再利用しているとのことで、内部には実際の裁判室も残されていました。展示コーナーではオーランドの気候、地下水の多い地質、マナティやスパニッシュモスなどの独特の動植物、名産品のかんきつ類、歴史についてそれぞれまとめられており、地元の方がボランティアとして丁寧に説明してくださいました。

特に興味深かったのは名産品だったというかんきつ類と牛のお話で、有名なカウボーイ、各かんきつ農家のブランドのマークの展示もありましたが、実際に移

動中の車窓からも放牧地が見られたり、ホストマザーから昔オーランドには建物よりずっと広く果樹園があった、ということを知ったりもしたので、ここはアメリカなんだという実感がここでやっと湧いてきました。



次に訪れた消防署では、ヒストリーセンターではオーランドに関する知識的なことを知ったのに対し、アメリカの方々の精神的な部分に触れることができましたと思っています。

右の写真の建物に入ってすぐの壁には消防士さんたちの宣誓文が刻まれており、他にもたくさんの火事現場や

そこで殉職なさった方々の写真、退職された方々のドックタグなどが目に見えるところにかざられていて、トロフィーなどが影の方に置かれていることと対照的でした。

また、案内して下さった方がおっしゃっていましたように食事は必ず全員でとるということで、御職業柄というのもあるでしょうが、それでも特に仲間を尊重し、大切にするのはアメリカならではの文化ではないでしょうか。



個人的なことをいいますと、お休み中の消防士のみなさんが親切にも棒を使って降下する様子を見せてくださったことがとてもありがたく、印象に残っています。

エオラ湖については、写真は残っていないのですが、都会の真ん中の湖に黒鳥が浮かんでいて、異国の情緒が豊かでした。

柳の木の下で毎回恒例だという集合写真を撮ったときには、確かな伝統といえますか、きちんと続けられている交流を実感できて、今いるオーランドだけでなく、浦安の事も思われました。

今後私が直接オーランドと浦安市のつながりを実感する機会というのは、もしかしたらないのかもしれませんが、それでも確かに私はこうして一度そのために動けたのですし、これからはのちの世代が受け継いでくれるのだと思うと、満足な気持ちになりました。

～ホストファミリーとの思い出～

草野 美穂

初めてホストファミリーからメールが届いたときに写真を見て、優しいなこの家族と一緒に過ごせると思うと不安よりも早く会いたいという気持ちの方が強かった。ホストシスターは 11 月に浦安に来ていたということで話してみたいこともたくさんあり、一週間前から会った時のことを考えると期待やわくわくがどんどん膨らんでいった。

オーランド空港に着くと私も少し緊張してきたが、プラカードを持って家族が待っているのを見つけるとそんな不安はどこかへ吹き飛んでしまった。

私のホストファミリーは 47 歳のお父さん、お母さんそして同い年の Claire, 13 歳の Gracie と 2 匹のプルートだ。家までの車の中で 4 人のうち誰かが話しかけてくれ外の景色を見ている時間がない程質問攻めにあった。ホストシスターは仲がとても良く理想の姉妹だった。

家に着いてすぐに 2 人のホストシスターがゴルフカートに乗って街を案内してくれるというので、カメラ片手についていった。まず近所に住むいとこの家にトマトを届けるついでに Claire 達のおばさんを紹介してもらった。おばさんもとても気さくな人だった。その後近くの湖までカートを走らせて湖の周りを散策した。



一通り街を案内してもらい家に帰り少し団らんした後で夕食に出かけた。

美味しいレストランでメニューもとても豊富だったが、お父さんはベジタリアンだったのでベジタリアンメニューを頼んでいたのは驚きだった。

夕食後は 2 人と一緒に Fun Park という小さな遊園地のような所に大きな回るブランコのようなものを乗りに行き上からオーランドの夜景を楽しんだ。そしてフローズンヨーグルトを食べてからお家に帰った。一日目から色々な所に連れて行ってもらい、オーランドがすぐに大好きになった。

翌日は天気良かったのでユニバーサルに3人で行かせてもらった。春休み初日ということもあって混んでいたがホストが色々なものに乗れるようにとExpress passをとってくれ2つのパークを満喫できた。乗り物のスケールも日本とは全く違い、角度も距離も水の量もすべてが桁はずれだった。乗っている間もちろん楽しかったが、それよりも待ち時間に写真をとったりお互いのことを話している時間が何ものにも変えられない程楽しく、今自分がアメリカにいるんだなと実感する瞬間だった。

夜7時頃に家に帰り、家族みんなでホストママの手料理を食べた。食事の前にはお祈りもした。食事の後持ってきたお土産を渡した。お菓子、だるまの絵のめがねおきや桜模様のタンブラーなど想像以上に気に入ってくれて嬉しかった。

特にお菓子ではキットカットの抹茶味は好評だった。日本と自己紹介用に作っていったスクラップブックも説明をしながら見せた所喜んでくれ、またその時に日本のことも質問され答えを返せたことが前回からの自分の成長にも感じられ達成感も感じた。



3日目は学校が終わってから Claire とショッピングモールと Walmart に買い物に行った後で Cinderella を見に行った。買い物の間も変わったものを見つけたり笑ったりどんな小さなことでも本当に楽しかった。時間がぎりぎり夜ご飯を急いで食べて映画館まで猛ダッシュしたり、そんなことを通してより距離が縮まってそれと同時に訪れる別れのことを意識し始めると複雑だった。



4日目、この日がホストファミリーと過ごせる最後の夜だった。

ホストシスターが手伝っている小学校のバレーチームの応援に行きそこでもお母さんの知り合いの方に話しかけてもらったりして嬉しかった。ディズニーで働いている方で浦安にも年1回いくとっていて、ディズニーシーがいかに素晴らしいかを熱弁された。その後いとこ達も遊びに来て一緒に夜ご飯にピザを食べた。2人にも日本のお菓子を勧めたところお気に入りにはキノコの山だった。

夕食後またゴルフカートに乗って夜風に吹かれながら近所を走った。なんてことのないことだけれど冗談を言い合ったり他愛もないことに一緒に笑ったり最高に楽しい時間だった。

家に戻ったあとでプールサイドに家族みんなで座ってこの1週間のことを振り返りながら団らんしている時に、今日が最後なのだと思うと寂しくなった。

ホストシスターの2人も部屋に来てくれて荷造りしながら一緒に映画をみた。

この1週間は今までで1番といえるほど充実した最高の6日間だった。このホストファミリーに会えなかったらおそらくこんなに毎日笑って過ごせなかったと思う。お父さんとお母さんは私がかつろげるように毎日気遣ってくれ、この両親の優しさには感謝してもしきれない。Claire と Gracie の2人のホストシスターとこの両親に囲まれながら過ごしたこのオーランドでの6日間はかけがえのない宝物だ。

～ホストファミリーとの思い出～

石戸 百音

私のホストファミリーはインド人の方だったので、アメリカだけでなくインドの文化にも触れることができました。お母さんの作ってくれたカレーは日本とは全く違い、汁気が少なくスパイシーでした。辛いですねと言うと、これでもスパイスを抑えめにしたんだよと言われ、とても驚きました。

2日目のホストファミリーと一日中フリーの日には、同年代の子とユニバーサルスタジオに行き、一緒にアトラクションやショーを楽しみました。日本のUSJのように混んではいなく、スムーズに乗り物に乗れました。

また、インドのいところが家に訪れて、大人数でwiiをして盛り上がりました。

言語が違っても一緒に楽しめることに、感動と嬉しさを感じました。初対面にもかかわらず、とてもフレンドリーに接してくれて私も話しやすかったです。

そして、私が一番不安だった言語の壁は、私が思っていたよりもなかった気がしました。何を言っているのか理解できない時、簡単な言葉で話してくれたり、私の思いが伝わらない時に、優しく聞き返してくれたり、何度も何度も助けられました。実の家族のように親しくしてくれたホストファミリーとの思い出は一生忘れません。



～ホストファミリーとの思い出～

山口 華凜

私たちがオーランド空港に着くと、10組のホストファミリーたちが出迎えてくれました。アメリカらしい風船や「WELCOME TO ORLANDO」といったボードを用意していて、日本との違いを感じました。私のホストファミリーは、バディの Taz、ホストマザー、ホストシスターの Paris の三人が出迎えてくれました！始めに何を話したら良いか分からなく不安でしたが、会ってすぐ Taz がハグをし、話しかけてくれたので安心しま



した。ですが、やはりネイティブは喋るのが速くてなかなか聞き取れず、少し不安はありました。

着いた初日は、車でショッピングに行きました。飛行機に乗って疲れていたはずなのに、見るものすべてが新鮮で感動し、疲れは全くありませんでした！ショッピングモールはとても広くブティックや、アクセサリーショップ、レストランなどたくさんのお店が並んでいました。ホストのおすすめの FOEREVER21 や PINK といった有名ブランドなど色々なお店を回り、楽しみました。アメリカの服はカラフルでカジュアルなスタイルが多く、日本と違ってまた良いと思いました。



2 日目のホストとの休日は、親戚の家のプールに入り遊びました。私がオーランドに着いた週がホストファーザーの誕生日だったこともあり、ホストのいとこや親戚が多く集まりました。プールには、Taz、Paris、いとこの 8 人で入りました。いとこは小学生の小さい子が多かったので、日本人の私に興味を持ってくれて話しかけてくれました。そ

して全員でゲームをしました。日本の氷おにのようなゲームとマルコ・ポロ・ゲームです。マルコ・ポロ・ゲームは日本にないゲームだったので、新鮮で面白かったです。

3 日目はスーパーに連れて行ってもらい、家族や友達にと、たくさんのお菓子やお土産を買ってもらいました。ちょうどイースターの季節だったので卵をモチーフにしたお菓子がたくさん売られていました。





そして Taz はアメリカでポピュラーなお菓子をおすすめしてくれました。どの食べ物やお菓子も日本にはないようなものばかりで、とにかくカラフルでビッグサイズ! 「これ食べれるの?」といったものも多くありました。Taz とそんな話題や日本のスーパーとの違い、日本にもありそうなお菓子の話題などで盛り上がりました。

4 日目はおうちでまったり映画を見たり、Paris にダンスの振りを教わってホストファミリーに披露したりしました。私のダンスをホストマザーがとても気に入ってくれてうれしかったです。私はそんなアメリカ人のすぐ踊りだしてしまうような雰囲気がとても好きになりました。いつかエンターテインメントの本場、アメリカでダンスを学びたいという思いが一層強くなりました。

最終日には、最後の思い出にと科学未来館のようなアミューズメントパークに連れて行ってもらいました。また、家ではホストマザーが忙しい中、海鮮料理を作って待っていてくれました。そんなホストの優しさを最終日に改めて感じられて、とてもうれしく感動しました。



初日は英語でうまく話せるかとても不安でしたが、ホストが一生懸命聞き取ろうとしてくれたおかげで、どうにか自分の意思を伝えることが出来ました。

しかし、うまく表現できずに伝えられないことも多くありました。その度にもどかしい気持ちになり、もっと英語を勉強したいと思いました。

ホストには本当にお世話になったので、たくさんの感謝をしたいと思います。そしてまた会うときには、英語をもっと喋れるようにしたいと思います。



～ホストファミリーとの思い出～

田中 夏乃子



空港につき、私を迎えてくれたホストマザーのシンシアさんとホストファザーのランディーさんでした。歓迎のカードを持って待っていて下さったことだけでも十分嬉しかったのですが、さらにお父さんが花束をくれ、いろいろと気を使っていただき、お母さんが温かく話しかけて下さったので、少しはあった不安も早々に消え、家に向かう車の中では会話ははずみました。

そのなかでお母さんが私に、「アメリカでなにをしたい？」と聞くより前に、「明日はディズニーに行く？」と言って下さり、会ったばかりなのに自分の思っていることを分かっていただけでいることが嬉しかったです。同じ

ときにその日の晩御飯についても尋ねられたので、初めての夜にはアメリカ風のピザを食べに連れて行っていただきました。

一日中ステイ先で過ごした日は、約束どおりマジックキングダムとハリウッドスタジオに行き、遅くまで楽しみました。

アメリカ故か、ショーがどれも迫力のあるもので、見ごたえがありました。スペースマウンテンにはホストシスターのティアと乗ったのですが、待ち時間に高校生らしい会話ができただのもいい思い出です。

そして、辺りがすっかり暗くなったところに帰途についたのですが、私はその日少し重いお土産を買い、ずっと同じ手に袋をかけていたため、腕のその部分にあざが出来てしまっていました。一日の終わりに、疲れて私自身も全く気付いていなかったそれにお父さんはいち早く気付いて声をかけてくださり、いつも静かなお父さんでしたが、その優しさにはただ



ただ恐れ入るばかりでした。

ほかにもいろいろな場所に連れて行って頂きましたが、グロサリーストアでお勧めのチップスを教えていただいたり、私が気に入ったケーキのレシピを探してくださったりと、恩を返しきれないほどよくしてくださいました。何度も Thank you は言いましたが、つたない英語で伝えきれなかった分をここに少しでも書き残しておきたいです。



～ホストファミリーとの思い出～

高木 彩音

やはり一週間の滞在の中で最も印象に残っているのは、ホストファミリーと過ごした時間である。私のホストファミリーは Gupta 家で、ご両親、16歳の Rose と9歳の妹 Risha のインド系の4人家族で、私をとっても温かく迎え入れてくださった。オランダに来るまでも SNS を利用して話してはいたものの、やはり実際に会うとなると緊張するものだ。そのような訳で、ホストファミリーと対面するまでは何話そう、意思疎通はできるのだろうかなど、あれやこれやと気を揉んでいたのが、いざ会ってしまえばそのような心配は皆目必要ないことがわかった。彼らの朗らかな態度によって、戦々恐々としていた私も知らぬ間に肩の力が抜けていった。

広々とした素敵な家に着いたところで、お土産を渡すという関門をクリア。外国人にプレゼントする際の、私の中での定番となりつつある富士山を模した杯を、ご両親は気に入ってくれたようだった。Rose と Risha には文房具や日本のお菓子をプレゼントしたが、こちらも喜んでくれて嬉しかった。夜は日本料理とはかけ離れたものになってきている“日本食レストラン”で鉄板焼きをご馳走になった。こうして初日は終わった。

と、このように全ての日について書いていきたいのだが、字数も限られているので、その中でも特筆すべきものを記していこうと思う。



↑ “日本食レストラン”



は国境がないことを改めて実感した。

また、様々な場所に連れて行ってくれた。Wonderworks や SeaWorld など、とても楽しかった。

ホストファミリーへの感謝の念は言葉に尽くせない。彼らと過ごした日々は決して忘れないだろう。再会を誓い合い、Gupta 家を後にした。本当にありがとう。

まず、Rose、Risha とダンスの話をしたこと。二人ともインドの伝統的な舞踊や、バレエを習っており、私自身もクラシックバレエを続けているのでとても盛り上がった。Risha のバレエのレッスンのお迎えについて行ったときにスタジオを覗いてみると、私も演じたことのある踊りを練習している人がいて、嬉しくなった。日本から持ってきたビデオを見せたり一緒に踊ったり、ダンスのような芸術に

ホストファミリーとの思い出

垣本 晏那

正直初めは一週間知らない人の家に泊まるうえに英語しか通じない環境ということで不安しかありませんでした。しかし、いきなり自分のスーツケースがオーランドに届いていないというアクシデントを笑顔で「ok!ok!」と言ってスーツケースが届くまでカフェに連れて行ってきて、たくさん話しかけてくれるホストファミリーに救われて最初の不安感も少し薄れました。一日目はそんなこんなで無事スーツケースも届き、ホストファミリーがアメリカの食事ということでステーキを食べに連れて行ってくださいました。家族みんな私に話すときはゆっくり話してくれたので何とか聞き取れたけど、家族の間でしている会話はほぼ聞き取れなくて少し焦りました。



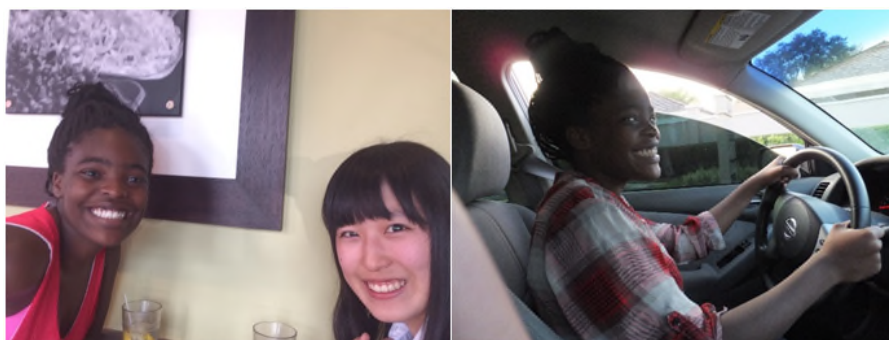
二日目は chanice と 2 人で universal orlando に行きました。ユニバーサルでは、私がずっと行きたいと言っていたハリーポッターのところにまず連れて行ってきて、そのあとに昔来た時に乗れなかったアトランクションにも乗れて、自分がやりたいと思っていたことがすべて出来たので本当に大満足でした。ユニバーサルにいる間、最初は私が全然上手く受け答えできなくてずっと受け身でしか会話が出来なかったのが最初はあまり会話がはずまなかったのですが、だんだん慣れてきて自分からも話せるようになったし、chanice も私の下手な英語を必死で聞き取ろうしてくれたので会話ができるようになってきて嬉しかったです。



また別の日には、私も chanice もラクロスをやっていたということで、木下ちえちゃんのホストファミリーに chanice と julia のラクロスの試合を見に連れて行ってもらってアメリカのラクロスも見られてよかったです。やはり本場のラクロスは違うなと感じました。帰りにスクールバスっぽいのにも乗れてラッキーだったし、その時に chanice やその友達もたくさん話しかけてくれて会話ができる、ちょっとアメリカの女子高生気分になりました。



私のホストマザーとファザーは仕事が忙しかったので少ししか会ってゆっくり話したりする機会がなかったのですが、その分 chanice といういろんなところにごはんを食べに行ったり、ショッピングに行ったりたくさん思い出ができて、仲良くなれたと思います。初めはいつも「yes」「no」など本当に簡単な返事しかできなかったけど、だんだん好きな音楽やお互いの国のことなどまだまだ未熟な英語だけど簡単な会話はできるようになって、本当に一緒にいる時間が楽しかったです。こんなに楽しい滞在になったのも私のことを快く受け入れてくれたホストファミリーのおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。せっかくこの貴重な機会であえたホストファミリーなので、これからも連絡をとりあって、関係を続けていきたいと思います。Thank you my host family!! I love you☺



～ホストファミリーとの思い出～

西本 拓海

私がステイしたファミリーはとにかく賑やかなファミリーだった。6人家族で、長男の Robbie は大学の寮に入っていたので家には5人で住んでいた。ホストブラザーの次男、Tommy はとても優しいお兄ちゃんという感じで兄弟だけでなく学校の友達にも、とても慕われていた。Ben と Mattie はそれぞれ10歳、13歳でふたりともやんちゃ盛りで、ホストマザーSusanさんの乗る車に木の実を投げて怒られていたり、家の敷地に面している湖に飛び込んだりと楽しい兄弟だった。

オーランドに到着した翌日は終日ホストファミリーとの交流だった。その日は、ユニバーサルスタジオにホストファミリーと志村君のホストファミリー、そして家族ぐるみの仲だという Collin と一緒に行った。彼らのファミリーは毎日のように3家族のうち、誰かの家に集まってパーティーをするほどの仲で、ステイ中も何度も一緒に行動することがあった。

ユニバーサルスタジオのアトラクションはとにかくスケールが大きく、迫力や怖さは日本の比になるものではなかった。それに、日本では100分待ちなど当たり前だが、40分待ちくらいのアトラクションでも「待ち時間が長いから後で来よう」という話になるくらい空いていて、たくさんのアトラクションを楽しむことができた。大阪のユニバーサルスタジオでも話題となった、ハリーポッターやスパイダーマンのアトラクションにも20分程度で乗ることができた。



5日目にはホストブラザーたちと、志村くん、Collinとで敷地に面している湖で遊んだ。ホストファミリーがカヤックや、ゴムボートを持っていてそれに乗ったり、泳いだりしてとても楽しむことができた。

また、今回の海外派遣は、東日本大震災以降初の派遣だったが、アメリカでも関心を持っている人は多かった。東日本大震災についての話を聞かれた時には英語で説明するのが難しかったものの、液状化の被害や津波の恐ろしさなどを伝えることができた。事前に調べて用意しておいた津波の映像を見せた時には、街が津波にのみまれていく様子を見てそこが街だとは信じられないと言っていた。

その一方で、東日本大震災についての誤解も多く、たとえば、原発の放射線によって生き物が大量死したとか、浦安市も津波の被害を受けたなどと思って

いたようだった。今回のような機会に、正しい情報を伝えることも大切だと感じる出来事だった。

冒頭にも書いた通り、私がステイしたファミリーは本当に賑やかで温かく優しい人達だった。研修中は彼らのお陰で楽しむことができたし、たくさんのお話を学ぶことができた。Ben に日本に来たいか尋ねたとき彼は、「Too long fright!」と答えたが、それでも「Someday」と言っていた。彼らが日本に来た時には是非再会して、今度は私が浦安や東京を案内したい。それだけではなく、EメールやSNSを活用してこれからもずっと交流を図っていききたい。

～ホストファミリーとの思い出～

志村 翼

オーランド空港で出迎えてくれていた今回お世話になるホストファミリーで同い年の jackson とお母さんと初めて対面してみて、不安でいっぱいだった気持ちが無くなりました。というのも、緊張していた僕にとっても笑顔で積極的に話しかけてくれ、さらに歓迎の意を込めたメッセージボードも用意してくれていたからです。

それからホームステイする家へ到着してみて「家めっちゃくちゃ大きいな！」と思いました。それから様々な説明を受けた後に日本からのお土産を渡したり、自己紹介の写真をもとにコミュニケーションをとりました。ここでは抹茶系のお菓子や桜の模様が入った手ぬぐいなどをとても気に入ってくれたり、写真では自分が通っている学校や家族について話しました。その中でわかったこととして「制服」に馴染みがなくて物珍しそうに聞いていたのが意外でした。

到着した日の夜は、この派遣の唯一同じ男子である西本君のホームステイ先である tommy の家族や仲の良い友達を集めて家でバーベキューをしてくれました。その時にはまだ小学生の子供たちともたくさん話すことができ、とても充実した時間を過ごさせてもらいました！また到着日が西本君の誕生日だということを知って、バースデーケーキを買ってきてくれてみんなで食べたりと本当にホストファミリーや友人らが温かく迎え入れてくれたことに感謝しています。

翌日はユニバーサルスタジオ・オーランドへ行くことになりました。その日まず初めに驚いたことは jackson は自分の車を持っており、毎日運転しながら学校へ行ったり遊びにいらたりするということでした。ユニバーサルスタジオへは西本君をはじめ tommy やその弟の mattie、バーベキューで仲良くなった近所の collin たちと行きました。そこではチケット代や食事代など何から何まで負担してもらうなどここでもお世話になりました。パーク自体の大きさはもちろん日本よりも大きくて、アトラクションもとても怖く、乗り終えた時には気分が悪くなるほどでした（笑）その後 jackson は体調を崩してしまい途中で帰ってしまって残念でしたが、残りの 4 人とさらに仲を深めることができました。

その次の日からは Dr.phillips 高校での授業体験でした。jackson の車で一緒に登校する予定でしたが、体調を崩してしまったので、毎日朝がとても早いにも関わらずホストマザーが送ってくれました。その車中では日本の文化や自分の学校など多くの日本のことについて話し、またオーランドのことについても聞かせてもらうなど、お互いの文化を共有できる充実した時間でした。徐々にオーランドでの生活に慣れてからは毎日がとても早く進んでしまいました。Dr.phillips 高校のラグロスチームに jackson と tommy は所属しているのでその試合と一緒に観戦した時にはホストマザーからサプライズでチームの T シャツを買ってもらいました！また、ある日学校へ行くのに携帯を忘れてしまったことを告げるとすぐに学校まで届けてくれたり、オーランドのことをもっと知ってほしい！ということでオーランド市内を説明しながらドライブしたりするなど数え切れないほど優しくしてもらいました。

他の日には僕と西本君・mattie・collin・ben の 5 人で家の目の前にある湖で遊んだり日本では滅多に経験できないことを多くやらせてもらいました。英語が上手く話せなかったり、特にリスニングが上手でなかった僕に嫌な顔 1 つせず対応してくれたり素晴らしい経験をさせてくれたホストファミリーをはじめ tommy の家族や友人たちには本当に感謝しています。また大きくなったらオーランドへ行き再会したいと心に決めました！また逆にホストファミリーが日本に来た時には温かく迎え入れて日本の文化についてたくさん紹介したいと思いました！



オーランド2日目、ホームステイ初日から休日だった。私は、ホストシスターである Jullia と2人でディズニーワールドで遊んだ。ホストマザーの友達がディズニーで働いているようで、その人が4つのテーマパークすべてに入場することのできるチケットを用意してくれた。ディズニーワールドまではホストファザーが車で送ってくれた。

まず最初は、ハリウッドスタジオに行った。ここではトワイライトゾーン・タワー・オブ・テラーとロックンローラー・コースターの2つのアトラクションに乗った。タワーオブテラーは日本と少し内容が違っていた。もうひとつのアトラクションは待ち時間が長かったのでシングルライダーで並んだが、結局2人で隣同士で乗ることができた。はすごくスリルがあって面白かった。

ハリウッドスタジオからバスで移動して次はマジックキングダムへ向かった。マジックキングダムでは入ってすぐにパレードを見た。ディズニーのプリンセスやメインキャラクターがたくさん登場してすごくにぎやかだった。その後はファストパスを使いスプラッシュマウンテンに乗った。スプラッシュマウンテンは日本とまったく同じ内容だったが、日本よりも水に濡れた。アイスを食べながら、次はプリンセス・フェアリーテール・ホールに向かい、ラプンツェルとシンデレラとグリーティングをした。待ち時間が30分と書いてあったのに実際は1時間近く待った。プリンセスと会話をしたり写真を撮ったりしたが、早口すぎて何を言っているのかわからなかった。

その後はスペースマウンテンに乗った。待ち時間が長めだったのだが、待ち時間にゲームができるようになっていて時間があまり気にならなかった。スペースマウンテンは日本のものよりもスリルがあって楽しかった。そして、少しお土産の買い物をしてまぎっくキングダムからエプコットに向かった。

パーク内を走る無料のモノレールに乗ってエプコットに移動した。エプコットは湖の周りに様々な国の建物が並んでいて見るだけでも面白かった。また、色んな国のコカコーラを飲むことができる施設があったりした。エプコットでは時間があったので、ほとんど全ての施設を見ることができた。日本のコーナーには三越が入っていて、日本のものの買い物ができるようになっていた。

こんなものも売っているのかと思うようなちょっと意外なものも売っていて見るだけで面白かった。エプコットはあまりディズニーの雰囲気はなかったが、所々でキャラクターがいてグリーティングをすることができた。最後に湖で行われる花火のショーを見て、ホストマザーに迎えに来てもらい車で家に帰った。

オーランドのディズニーワールドに行って東京ディズニーリゾートと違うところや同じところを比べることができてすごく楽しかった。また、待ち時間にホストシスターとたくさん話すことができて距離が縮まったと思う。すごく楽しい休日になった。



マジックキングダム入り口



タワー・オブ・テラー



シンデレラ城前



エプコット入り口

～ホストファミリーとの思い出～

山本 陽織

オーランドに着いた日の翌日は日曜日で、高校も休みだったため、一日ホストと過ごすことが出来ました。この日は、オーランドに行く前からホストである同い年のケイトとのメールのやりとりによって、Universal Studios に行くことになっており、とても楽しみにしていました。

Universal Studios へはケイトとケイトの友人のアメリア、ルイスと行く予定でしたが、ルイスが体調不良で行けなくなってしまったので、3人で行くことになりました。



Universal Studios は派遣生が授業体験をした Dr.Phillips High School の向かいにあり、ホストファミリーの家からは車で 15 分くらいの距離で、アメリカの運転で行きました。フロリダ州の高校生は 16 歳から運転免許がとれるそうで、驚いた私にアメリアは彼女の運転免許も見せてくれました。それでも、最初は少し不安もありましたが、アメリアはとても運転が上手で、その不安もすぐに無くなりました。

私は日本の Universal Studios へ行ったことが無いので、よく分からないのですが、それでもアメリカの Universal Studios のアトラクションの方がかなり激しいのでは無いかと思います。乗ったアトラクションの中で印象に残って

いるのはスパイダーマンの3Dを用いたジェットコースターです。このジェットコースターは3Dの映像に合わせて、実際に水がかかってきたり、炎があがったりと迫力が満点でした。また、ポパイ&ブルーツ・ビルジラット・バービスというアトラクションは水の上を進んでいくジェットコースターで、上からまるで滝のように水が降ってきたりと信じられないほどの水をかぶり、真ん中のビニールをかぶせてあった荷物入れに入れてあったリュックサックも中身まで濡れてしまうほどで、濡れた服は家に着くまで乾きませんでした。

その後日本でも話題のハリーポッターのエリアに行くことが出来ました。エリアの中のお店では魔法のローブを試着することができ、なんと店員さんが写真をとってくれました。



Universal Studios から帰った後は、ケイト、アメリカに加えハンナ、ケイミーと一緒に湖で遊びました。ホストファミリーの家にはボートハウスがあり、直接湖に行けるようになっています。私は初めて一人乗りのカヌーに乗り、最初はなかなか上手く方向転換ができませんでしたが、だんだんスムーズにできるようになりました。



その後は、お父さんが運転する船に乗り日の入りを見に行きました。何も遮る物が無く湖に反射してきらきらと輝く夕日は本当に綺麗できっと忘れることは無いと思います。

ゆっくりホストファミリーと過ごせたのはこの一日だけでしたが、本当に楽しい一生忘れられない日となりました。またいつか、ホストファミリーや友人達とアメリカで遊んで、また、日本も案内したいと思いました。

～海外派遣の思い出～

石戸 百音

アメリカではコミュニケーション能力がとても大切だなと感じました。なぜなら、自分自身の意見を明確にしたり、Yes か No かはっきり言って欲しいと求められる場面が日本よりも多く見られたからです。「どちらでも」という言葉は一見、相手の意見を尊重してるように聞こえますが、自分の意見を理解してもらえず、相手も戸惑ってしまうのだとわかりました。

また、混雑した場所で人の中を通りたい時に‘Excuse me.’ とはっきり言ったり、ぶつかった時に‘Sorry.’ と言うなど、当たり前の事が日本よりもしっかり出来ていることにとても驚きました。このような状況でのコミュニケーションも豊富でした。

1 日を過ごす度に、徐々に耳が慣れてきて、たくさんのかたを聞いたり話したりと、異文化を理解することに繋がったと思います。ホストファミリーの友達や親戚に会った際に、全てのかたが私に、日本とアメリカの生活の違いや、私の普段の生活スタイルなどを質問してくれて、とてもフレンドリーだったので、アメリカ人の優しさを身を持って実感することができました。外国から日本に来た留学生に、私たち日本人はこれほどに優しく接しているかと疑問に思いました。違う言語を話している中でも、人の気持ちは伝わるものなんだと改めて学べた一週間でした。



～海外派遣の思い出～

山口 華凜

私は、海外でホームステイするのは初めてだったので、当日までは楽しみな気持ちと不安が半々でした。また、派遣員のみんなとは研修会でしか会うことはなかったので、仲良くなれるかという不安もありました。



今でも初めてダラス空港に着いた時の感動を覚えています。日本とは違うアメリカの空気を肌で感じ、期待に胸が膨らみました。オーランド空港に着くと、ホスト達が風船やボードを持って待っていました。初めて会うホストに緊張しましたが、ホストがハグをして笑顔で話してくれたので緊張が少し和らぎました。

初日は見るもの、聞くもの、感じるもの、すべてが自分にとって初めてだったので、胸が高鳴りました。私は、アメリカのドラマなどを見て海外にずっと憧れていたの、自分が今アメリカにいることが夢のようでした。外の景色は、日本と違って緑が多く、また天気も良くすごくきれいで、自分が想像していたまさにそのものでした。そんな景色に囲まれて、憧れてきたこの場所で1週間も過ごせると思うとこれからが楽しみで仕方ありませんでした。



3日目、ドクターフィリップス高校で授業体験をしました。制服がなく、日本と違う自由な雰囲気に関心されました。生徒たちは私たちと近い年齢なのに、ずっと大人っぽく見えました。また、授業中の雰囲気も違い、どの生徒もノートをとることより先生の話に集中して、疑問に思ったことはすぐ質問をしていました。そんな授業中に質問が出来る雰囲気は日本にも必要だと思いました。

授業の後には、消防署と歴史センターの見学をしました。消防署ではジェシーというイケメン消防士に会いました。私たち女

子は一目ぼれで、1日ジェシーの話でもちきりでした。次に行ったエオラ湖はとてもきれいで、青い空、青々と茂る木々、そして透き通る水。そこで撮った10人の写真は一生の宝物です。



4日目はNASAに行きました。私が想像していたものと違って、テーマパークのようになっていました。発射時の疑似体験ができるアトラクションや着陸時の角度を体験する巨大滑り台など、みんなで楽しく回りました。この時には、私たちはとても打ち解けていて、お昼ご飯の時には、このメンバーでよかった、という話をしました。

そして、ホストと別れを告げた6日目。ホストに感謝の気持ちを伝え、私たちはバスに乗り込みました。ホストと離れる寂しさに加え、オランダで過ごす時間も残り少ないんだな、と実感しました。そして、私が楽しみにしていた観光の一つ、ディズニーワールドへ向かいました。4つのパークのうち、アニマルキングダムに行きました。特に気に入ったのは、エベレスト。大きなジェットコースターで、日本にあるものとはスケールが違い、驚きました。素敵な仲間とディズニーワールドを楽しむことができ、この時間が続けばいいのに…と何度も思いました。最後の夕飯は、みんなで旅の振り返りをしてたくさん笑いました。

派遣を通して、英語を学びたい気持ちが強くなりました。ホストと話していて、伝えたいことをうまく伝えられず、もどかしい気持ちに何度もなりました。これからは、英語を学校の教科の一つではなく、コミュニケーション手段として勉強したいと思いました。また、海外への憧れがより強くなり、いつかアメリカで暮らしてみたいと思いました。

たった1週間でしたが、私にとって大きな経験になりました。この経験で感じたことを胸に留めてこれからに活かしていきたいです。この10人でオランダに行くことが出来て本当に良かったです！



～海外派遣の思い出～

田中 夏乃子

ヒストリーセンターや消防署、エオラ湖、ホストファミリーについては別紙にまとめましたので、私はここではそれら以外について書こうと思います。



まずはケネディースペースセンターについてですが、私はもともと宇宙に特別な興味があるというわけではありませんでした。しかし、センターに向かうバスの中で紹介を聞き、また実際に到着して、スペースシャトルの実物を見てみると、やはりロマンを感じずにはいられなくなってきて、結果他のどの団員よりもそれぞれの説明に興味を

持って楽しんでた、と自負しています。この写真に写っているのはロケットの噴射口の部分です。見学とは別にロケットの打ち上げの際の揺れを体験できるアトラクションにも乗りましたが、実地で体感すると、どんなにロマンがあったとしても自分は宇宙飛行士にはなれないなと思えました。

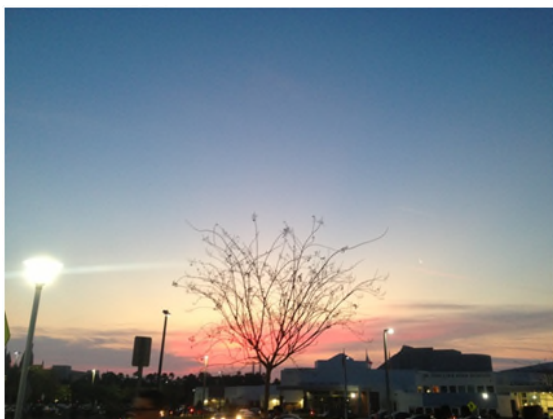


電車から降り、市役所周辺につくと、そこは今まで見てきた“オーランド”とは全く違った、ヨーロッパ的な建物にこまごまとした雑貨屋さんが並ぶ町並みで、アメリカに対する私の印象を大きく変えました。ただしアメリカらしいところも存分にあり、そのおかげで、自分がどこにいるのかよくわからず、すこし宙ぶらりんな気分になっていたのも覚めました。

そのアメリカらしいものがこれらです。



青いアイスの名前は私の記憶が正しければ“ブルームーン”でした。月にこの派手な青色を使うセンスは奇抜で素敵だと思いました。このハンバーガーは“バーガーファイ”というお店のものです。ホストシスターに尋ねたところ、ティーンエイジャーに人気のお店だったそうで、シェイクがお勧めだということで、日を改めてバナナシェイクを買いに行きました。日本のものより濃厚で、おいしかったです。



最後に、オーランドの夕日について。これはホストマザーに教わったことなのですが、オーランドの夕日はその美しさで有名で、車を運転している人がわざわざ止まって車の外に出て眺めるほどなのだそうです。

今回の研修では他にもたくさんオーランドの素敵なお店に出会いましたが、今思うのは、ただその機会があった私はほんとうに幸運だったのだということです。

このご縁を支えてくださっていたすべての人、物事に感謝して終わりたいと思います。

～海外派遣の思い出～

高木 彩音

オランダでの一週間はあっという間だったが、その中でたくさんのことを見て感じて、学んだ。たくさんのお会いがあった。Rose や Dr phillips の友達やホストファミリーとの時間はどれもかけがえのないものであるし、縁があってこうして集まった派遣団の仲間たちと過ごした時間も本当に大切なひとときであった。



まず、同じ派遣団の仲間たち。現地に向かうまで数回しか顔を合わせていないのが嘘のように親しくなり、以前からの親友のように冗談を言い合ったりした。

それぞれの個性が引き立っていて、一人でも欠けたら派遣団ではないというように感じた。

次に、Rose とホストファミリー。私を家族の一員のように受け入れてくれ、本当に温かい方たちだった。日本について興味を持ってくれていたようで、日本についての様々なことを話し、またインド、アメリカの文化、生活についてたくさんのお話を教えてくれた。



Dr Phillips で出会った学生たちとも、いい思い出をたくさん作ることができた。休み時間に他愛もない話をしたり、日本語で「コンニチハ～」と挨拶してくれたり、よい人たちばかりだった。

他にも市役所の方々をはじめ、多くの方との出会いがあった。それらすべての出会いを光栄に思うとともに、今回の派遣にご尽力くださった方々に感謝したい。

派遣を通して本当にたくさんのお話を学んだ。これからは、それらの学んだことをただ単に「いい思い出」の中に収めておくだけではなく、様々な形で発信、活用していきたい。

研修を終えた今、これから何をするか、それが大切なことだと思う。

かけがえのない一週間でした。ありがとう。



～海外派遣の思い出～

垣本 晏那

今回の研修に参加して本当によかったと思うことの一つは、この研修に参加していなかったら絶対に知り合えないような友達と出会えたことです。初めに顔合わせをした時は正直高校三年生ひとり、あとはみんな年下だし仲良くなれないだろうと勝手に思っていました。でも、その考えはもう研修の初日で完全になくなって、この人たちとなら一週間楽しく過ごせそうと思い直しました。実際に過ごしていると、みんな初日の顔合わせの時とはいい意味で変わりましたし、それぞれの個性が本当に豊かで一緒にいるのがとても楽しかったです。みんなで一生懸命に準備したウェルカムパーティー、イケメンのジェシーにみんなテンション上がった消防署、カモメに襲われながらもご飯を食べたケネディスペースセンター、これだけじゃなくてほんのささいな出来事も一個一個に思い出が詰まっていて、どのシーンを切り取っても一生忘れない思い出になっています。



今回の派遣では、普通の旅行では絶対に行けないようなところに連れて行ってもらったり、経験をすることができました。特に印象に残っているのは、実際に Dr.philipps 高校に通って授業体験をできたことです。アメリカの学校で授業を受けることは昔からの夢ではありましたが絶対実現はできないと思っていたので、今回実現できて、本当に嬉しかったです。正直授業内容は半分も分からなかったけど、日本に興味を持って話しかけてくれる子とかもいて、本当にアメリカの女子高生になった気分になれました。また、今回行った消防署も普通に行ったのでは見られない裏側まで見せてもらえるのでとても貴重な経験でした。



この派遣で一番大変だったのは、あいまいじゃなくてはっきりと自分の意見を言わないと上手く伝わらないということです。私は日本ではそんなに自分の意見をはっきり言うタイプじゃなかったのですが、それなりにやってこれていました。でもアメリカではそれじゃ全然だめで、自分がどうしたいのかをはっきり伝えないと上手くいかないことを最初のうちに実感させられました。でもオーランドの人たちは、私が何をしたいといういつもベストな形で答えてくれて、オーランドの人たちの優しさにもたくさん触れられた7日間でもありました。

私は、今回まず派遣のメンバーに選ばれた時点からオーランドから帰国するまで本当に環境に恵まれていたと思います。受験期間と重なって研修に参加できなかったりとたくさん迷惑をかけることもありましたが、このオーランド派遣に参加できて、本当によかったです。最高に楽しい7日間でした。携わってくれた皆さん本当にありがとうございました。



～海外派遣の思い出～

西本 拓海

私が海外派遣に応募したのは、ある知人の紹介だった。話を聞けばとにかく楽しく、学校の語学研修旅行や私旅行では経験することのできないことを経験できるという。

今回の派遣団は、とても恵まれたメンバーだったと思う。全員が明るくとても楽しい人たちで研修中は英語の面でも精神的な面でもとても助けられた。最初の事前説明会で名簿を見た時はそうそうたるメンバーで、正直、密かに緊張していたことは事実だ。しかしながら、先述した通りメンバーは全員明るく、楽しい人ばかりで第一回の事前研修会からだんだんとその考えは消えていくこととなった。

出発当日、機内ではシートテレビが映らなかつたり、それを客室乗務員の方に訴えても”I can't do anything!”と言われるなど、早速様々なところでアメリカン品質を体感することとなった。オーランドに到着するとすぐにホストファミリーと対面することとなった。ホストブラザーである Tommy から事前にもらっていた手紙に載っていた顔を探すと、”Welcome to Orlando! Takumi”と書かれたプラカードを持っている Tommy を見つけることができた。とにかく背が高く 2メートル近くの身長だった。事前に送られてきていた写真は顔のみが写った写真だったのでとても驚いた。

その夜は、志村君のホストファミリーとともに BBQ パーティーを開いてくれた。実は、出発日である 3月14日は私の誕生日でそこに時差も加わり 16歳の誕生日は 35時間位あったのだが、そのことを知ったホストファミリーはケーキを買ってくれた。

2日目はホストブラザーとその友達でユニバーサルスタジオに行き楽しんだ。

3日目にはドクターフィリップス高校で授業体験をした後、ヒストリーセンターに行きオーランドの歴史を学んだ。その中に日本の人形があったことは驚きで、それが数年前まで倉庫で眠っていて、それを職員が発見したという話も驚きだった。消防署では消防服を着させて頂き、その重さに驚き、消防車が出動する瞬間が見られたことにも驚いた。このように、1日過ごすだけでも驚きの連続で新鮮な体験だった。見学の後はショッピングモールへ行き店員の接客の違いを感じながら買い物ができる。ウェルカムパーティーでは長い間準備してきた成果を発揮することができた。

4日目はケネディスペースセンターへ行き、バスの中では最初の不安がなかったかのように楽しく話すことができた。ケネディスペースセンター内は様々な展示があり、月の石を触れたことは面白かった。



5日目の市役所訪問では最後の最後で市長にお会いすることができ良かった。コミッショナーの方のお話もとても楽しく、ためになるお話だった。

6日目の朝はホストファミリーとのお別れだったが、バタバタしてしまったのでもう少し時間が欲しかった。アニマル・キングダムでは、あっという間に時間がなくなってしまったが、10人でとても楽しい思い出を作ることができた。夕食のステーキ店ではプリンを頂きとても嬉しかった。

帰りの飛行機も例によってシートテレビの不具合があったが、シートテレビを見る気力もなく疲れてぐっすり寝てしまった。

このように時系列を追って簡単にテキストにするとたかが、1000文字程度の文章になるが、それでは表現できないほど内容の濃い、楽しく充実した1週間だった。この旅を楽しくしてくれた9人のメンバーと随行者のお二人、市役所の方々、添乗員の方、ホストファミリー、ドクターフィリップス高校の生徒、先生方、そしてこの旅行に参加させてくれた親、この派遣に関わったすべての人に感謝したい。本当にありがとうございました。

～海外派遣の思い出～

志村 翼

今回の浦安市青少年海外派遣事業に選ばれて初めてメンバーと顔合わせした時に思ったことは「男2人だけ？」でした（笑）正直10人の中で友達はいないし、自分を含めて男が2人だけだと知って不安で仕方ありませんでした。そこから軽い交流を経て、何回かの研修を通し徐々にお互いを知ることができました。特にウェルカムパーティーの発表グループで一緒になった2人とは原稿作成や打ち合わせ、練習など何度もお世話になりました。そして研修を何度もやるにつれて今回の派遣への「不安」は「楽しみ」へと変わっていきました。常に笑いが絶えない雰囲気でありながら、やる時にはやる、というメリハリのあるしっかりした10人がとても好きでした。

緊張と楽しみの中、当日を迎えました。僕にとってオランダはもちろん、実はアメリカ本土へ行くことは初めてでした。成田空港からダラス空港、そこからオランダ空港という乗り継ぎで行ったのですが、本当に飛行機に乗っている時間が長かったです（笑）。今となってはそのような思いをしてでももう1度オランダへ戻りたい、というほど今回の派遣事業は僕にとって格別な経験でした。

そしていよいよホストファミリーとの初対面です。日本を出発する前から頻繁にメールでやりとりをして仲良くなる、という理想を描いていたにも関わらずjacksonからは1回しかメールの返信が来ませんでした。そのようなこともあり、とても不安でしたが空港で温かく迎え入れてくれたこと、仲を深めるためにバーベキューを催してくれた初日は忘れません。

到着した翌日はホストファミリーとの自由な 1 日で、ユニバーサルスタジオ・オーランドへ連れて行ってもらいました。そこではチケットや食事代など何から何まで負担してもらうなどとても親切にしてもらいました。途中で jackson が体調を崩し帰ってしまったのはとても残念でしたが、tommy をはじめ小学生の mattie・collin らとも積極的に会話し仲を深めることが出来て嬉しかったです。

翌日からは Dr.phillips 高校での授業体験が始まりました。Dr.phillips に到着して学校の規模の大きさに驚きました。授業体験を通して感じたこととしては日本とは全く違った自由な雰囲気、そして集団に合わせる日本人とは違い自己主張をはっきりするところに衝撃を受けました。また自由な雰囲気の中には「自己責任」というものをわきまえつつ行動しているのかなあ、と思いました。

その他ケネディスペースセンターでは日本で経験出来ないことをしたりアメリカ人はあまり使わない電車、サンレールと言われるものに乗ったりしました。各場所に移動する際、窓の外に目を向けるとそこには多くの緑、広々とした土地があり「本当にいい場所だなあ」と感激しました。オーランドへ行く前はホームステイ先での予定は不安しかなくあまり進まない気持ちでしたが、実際に経験してみると「もっとホストファミリーと一緒に過ごしたい！」という気持ちが一番強くなりました。今後、絶対にオーランドへ戻りホストファミリーや友達と会いたいと思いつつ、逆に日本へ来てもらい日本についてより多くのことを教えてあげたいと思いました。

最後に今回一緒に行動した 9 人と団長、金子さん、添乗員の栗原さん、そしてこの派遣を支えてくれた中島さん、氏次さんにはお世話になりました。一生の思い出となる最高の経験でした！



この海外派遣で私はとても良い思い出ができた。1つはホストファミリーとの思い出だ。今回の海外派遣でホームステイをしたのは5泊とすごく短かったが、その中で休日に一緒に遊びに行ったことから一緒にご飯を食べたり TV を見たりというようなことまですごくいろいろな思い出を作ることができた。

ホストファミリーとの思い出の中でもやはり一番は休日に一緒にディズニーワールドに行ったことだ。ホストシスターと一緒にキャラクターと写真をとったり、アトラクションに乗ったりしたのはすごく楽しい時間だった。他にもホストシスターのラクロスの試合を家族と一緒に見に行ったのも面白かった。選手たちの家族がたくさん応援に来ていたのだが、その応援がすごく熱くて日本の高校のラクロスの試合との違いが感じられた。また、ホストファザーとホストマザーの作るご飯がすごくおいしかった。ホストファミリーはすごく優しく、私と本当の家族のように接してくれた。ホストファミリーと生活することで少しでもアメリカの暮らしや文化を体感することができたのではないかと思う。

2つ目はアメリカの高校の授業を受けたことだ。日本の高校の授業とは違う形の授業で、日本の高校との違いに驚いた。私は数学と日本語とアメリカ史の授業を受けた。まず、最初に驚いたのが毎日同じ時間割なことだ。日本では曜日によって時間割が違うのが一般的なもので毎日同じ時間割で授業を受けることに驚いた。また、授業が黒板やホワイトボード中心ではなくパソコンや書画カメラをプロジェクターで映し出したものを中心に進められているのにも驚いた。

そして、学校の中で一番驚いたのは日本語の授業だ。当然の事だが、私はこれまで日本語の授業を受けたことがなかったので外国の人が日本語の勉強をしているのを体験するのはすごく面白かった。日本語の例文がちょっと日本人の感覚と離れているようなものだったり、漢字を覚えるときに象形文字のように絵や形のようにして覚えていたりしてちょっと面白いなと感じた。私たちが普段学校で受けている英語の授業も英語が母国語の人が受けたらすこし面白いのかもかもしれないなと思った。

他にも、一緒にこの派遣に参加した10人でオーランドの様々な場所を見学したのも良い思い出になった。特にウィンターパークはすごくきれいな町で歩いているだけですごく楽しかった。

この海外派遣に参加して一生記憶に残るような良い体験ができ、すてきな思い出がたくさんできた。



ホストファミリー



日本語クラス

～海外派遣の思い出～

山本 陽織

海外派遣の思い出の中で一番印象に残っているのは、最終日に派遣のメンバー全員でウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートへ行ったことです。ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートはテーマパークの数が東京ディズニーリゾートよりも多くマジックキングダム・パーク、ディズニー・アニマルキングダム、エプコット、ディズニー・ハリウッド・スタジオ、と4つあります。今回訪れたのは、ディズニー・アニマルキングダムです。ディズニー・アニマルキングダムは、日本のディズニーリゾートには無いアトラクションが多くあるので行くのがとても楽しみでした。

ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートはチケットや入場方法、ファストパスなどが日本のものとは少し異なっていました。特に驚いたのは、入場に指紋の登録が必要であったことと、ファストパスが紙媒体では発行されないことです。最初は少し戸惑いましたが、これまで訪れた施設に比べて、日本語が喋れるスタッフさんや日本語のガイドブックなどがあったため、スムーズに行動することが出来たと思います。



ディズニー・アニマルキングダムは中に本物の動物も数多く暮らしており、パークを回っている最中にも日本では見たことが無い色鮮やかな鳥が頭上を飛んで行ったりすることもありました。アニマルキングダム内には、アジアというエリアもあり、そのエリア内では漢字や、仏像のような形をしたオブジェを

所々で見かけました。

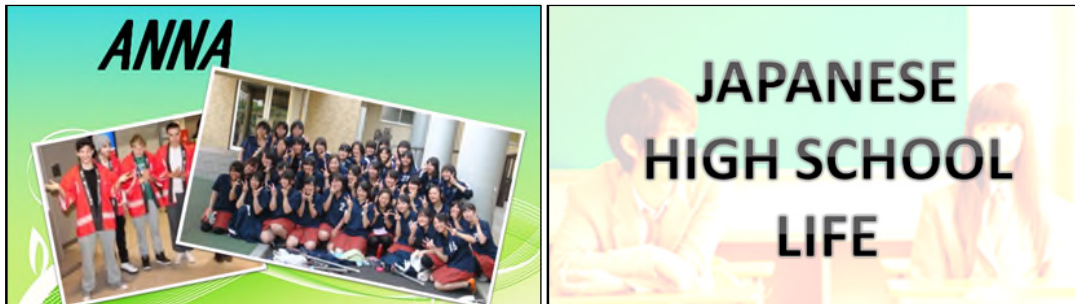
乗ることが出来たアトラクションはカリ・リバー・ラピッド、エクスペディション・エベレスト、キリマンジャロ・サファリ、プライミーバル・ウィール、また、フェスティバル・オブ・ザ・ライオン・キングというショーを見ることが出来ました。高校で授業に参加した後ということもあり、あまり長い間はいられなかったため、回れたアトラクションは少なかったですが、ファストパスを活用して効率よく回ることが出来たと思います。特にエクスペディション・エベレストはパーク内のアトラクションの中でも1, 2を争うほど人気のアトラクションで、私のホストファミリーの方のおすすめでもあったのでとても楽しみでした。このアトラクションはジェットコースターで、スピードが速く、コースもかなり複雑で、日本のジェットコースターよりかなり激しかったです。また、途中でDonaldのキャラクターグリーティングと偶然会えて、全員でステキな写真を撮ることが出来ました。



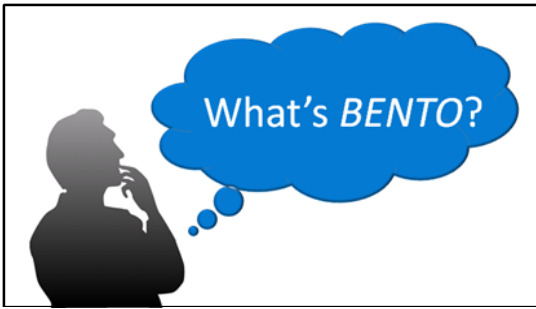
メンバー10人だけでずっと一緒に回り、日本には無いものも経験することが出来、とても楽しかったです。また、自分達だけで言葉が基本的には通じない環境を観光するのは、すべての行動を主体的に起こしていく必要もあったので、大変貴重な体験になりました。また、この半日でメンバーの絆も深まり、素敵な思い出になったと思います。

⑬英語による日本紹介 各グループの発表資料

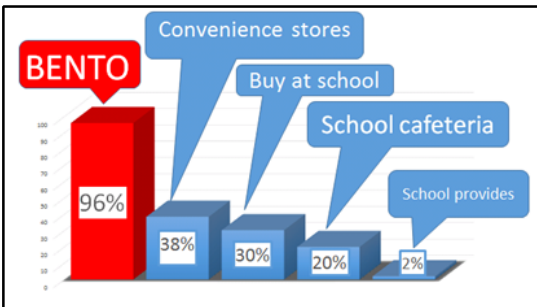
Group A 垣本 晏那、高木 彩音、山本 陽織
 タイトル「JAPANESE HIGH SCHOOL LIFE」



NEXT...



What do the Japanese high school students have at lunch time?



Standard Menus

Tamagoyaki
→rolled egg

Ingredients:
eggs, suger, soy sauce, *dashi*

A photograph of a plate of Tamagoyaki, which are rolled omelets. They are yellow and rectangular, served on a white plate with a small garnish of green onions.

Japanese school uniform



Summer and Winter



Various uniforms



Group B 山口 華凜、石戸 百音、田中 夏乃子、西本 拓海
タイトル「Japanese Culture」

Japanese Culture

Group B

Karin Yamaguchi Kanoko Tanaka

Mone Ishito Takumi Nishimoto

What is "Kawaii"?
カワイイとはなにか?

ABOUT "KAWAII"

JAPANESE GIRLS CHAT

Look!! I bought a new pen yesterday!!

JAPANESE GIRLS ALWAYS SAY "KAWAII"

Oh! It is very KAWAII!! I want to buy it, too!!



Japanese Fashion

- Japanese girls and boys enjoy shopping to buy many clothes.



School Uniforms

Most schools have School Uniforms.



HARAJUKU



HARAJUKU CREPE



HARAJUKU Fashion



FUTAGO CODE MATCHING-OUTFITS



IDOL



WOTAGEI



KAWAII THINGS ARE AROUND YOU!!



Girls love "KAWAII". Then, what are Japanese boy's favorite things?

Pazu-dora

"Pazu-dora" means "Puzzle & Dragons"
 Puzzle & Dragons is a game app.
 Many Japanese people like this app.



PAZU-DORA



GAME APPS



MANGA



One day in high school students lives

- 6:00 Wake up
- 7:00 Leave house
We have to take trains packed with people to work or school.
- 8:00 Arrive at school
- 8:30 Start class
- 12:30 Lunch Break
Most students have "BENTO"
- 13:10 Restart class
- 15:00 Classes finish
- 15:30 Club activities
- 19:00 Activities finish
- 20:00 Arrive at house
- 20:30 Dinner
- 21:00 Watch TV
- 22:00 Homework
- 24:00 Go to bed



Boy's uniforms

- Boy's uniforms have two types.



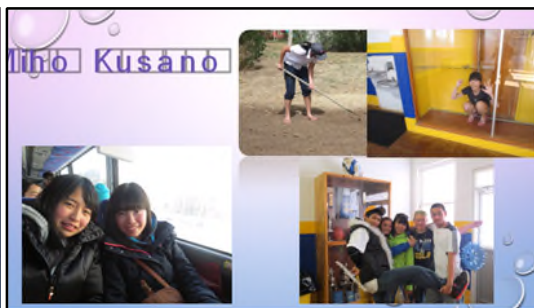
GAKURAN

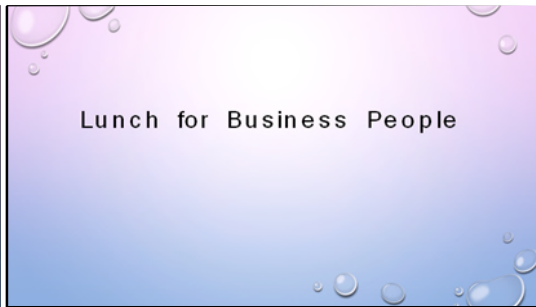


BLAZER

Thank you for listening!!

Group C 志村 翼、草野 美穂、木下 智恵
 タイトル「JAPANESE FOOD」







⑭浦安市青少年海外派遣事業のあゆみ

回	年度	派遣期間	派遣人数
1	平成2年度	12/23～1/3	15
2	平成3年度	7/29～8/9	20
3	平成4年度	7/22～8/2	10
4	平成5年度	7/23～8/3	12
5	平成6年度	7/22～8/2	12
6	平成7年度	7/21～8/1	15
7	平成8年度	7/26～8/6	12
8	平成9年度	7/20～7/31	12
9	平成10年度	7/21～8/1	12
10	平成11年度	7/21～8/1	12
11	平成12年度	7/29～8/9	12
12	平成13年度	8/18～8/29	12
13	平成14年度	8/17～8/28	12
	平成15年度	サースの影響により、安全重視のため中止	
14	平成16年度	8/14～8/25	14
15	平成17年度	8/13～8/24	14
16	平成18年度	3/21～3/30	14
17	平成19年度	3/21～3/30	14
18	平成20年度	3/20～3/29	15
19	平成21年度	3/19～3/28	15
20	平成22年度	震災の影響により、延期	
	平成23年度	24年3/16～3/23	13
21	平成26年度	27年3/14～3/21	10
合 計			277